



令和6年度

# ふるさとづくり大賞 事例集



総務省 地域力創造グループ 地域振興室

# ふるさとづくりが日本の活力に

ふるさとづくり大賞は、全国各地で、それぞれのところをよせる地域「ふるさと」をより良くしようと頑張る団体、個人を表彰することにより、ふるさとづくりへの情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的とするものです。本書が、地域でふるさとづくりに取り組む方々にとって、課題解決に向けたヒントとなり、またふるさとづくりに興味を持たれた方々にとって、他の団体・個人の活動内容を知るきっかけとなれば幸いです。

## 構成

事例の紹介は、見開き2ページの構成としています。

- 1ページ目  
事例の概要について掲載しています。
- 2ページ目  
取り組みを始めたきっかけから、取り組みが発展していく過程、今後の展望までをいくつかのステップに分解し、一連の流れとして整理しています。



最優秀賞  
(内閣総理大臣賞)



団体表彰  
(総務大臣表彰)



優秀賞  
(総務大臣表彰)



地方自治体表彰  
(総務大臣表彰)



明日への希望賞  
(総務大臣表彰)



たむら ひでひこ  
**田村 英彦氏**

ちくまし  
**【長野県千曲市】… 11P**



あまちようふくぎようきようどうくみあい  
**海士町複業協同組合**

あまちよう  
**【島根県海士町】… 9P**



とっとり  
**ガイナーレ鳥取**

とっとりし  
**【鳥取県鳥取市】… 37P**



はりえしろうず さと  
**針江生水の郷委員会**

たかしまし  
**【滋賀県高島市】… 27P**



ひょうごけんりつ たつのきたこうとうがっこう  
**兵庫県立龍野北高等学校**

たつのし  
**【兵庫県たつの市】… 31P**



からつ  
**いきいき唐津株式会社**

からつし  
**【佐賀県唐津市】… 3P**



せがわ ちか  
**瀬川 知香氏**

みなみきゆうしゅうし  
**【鹿児島県南九州市】… 7P**



**つばめまなか商店街**

つばめし  
**【新潟県燕市】… 25P**



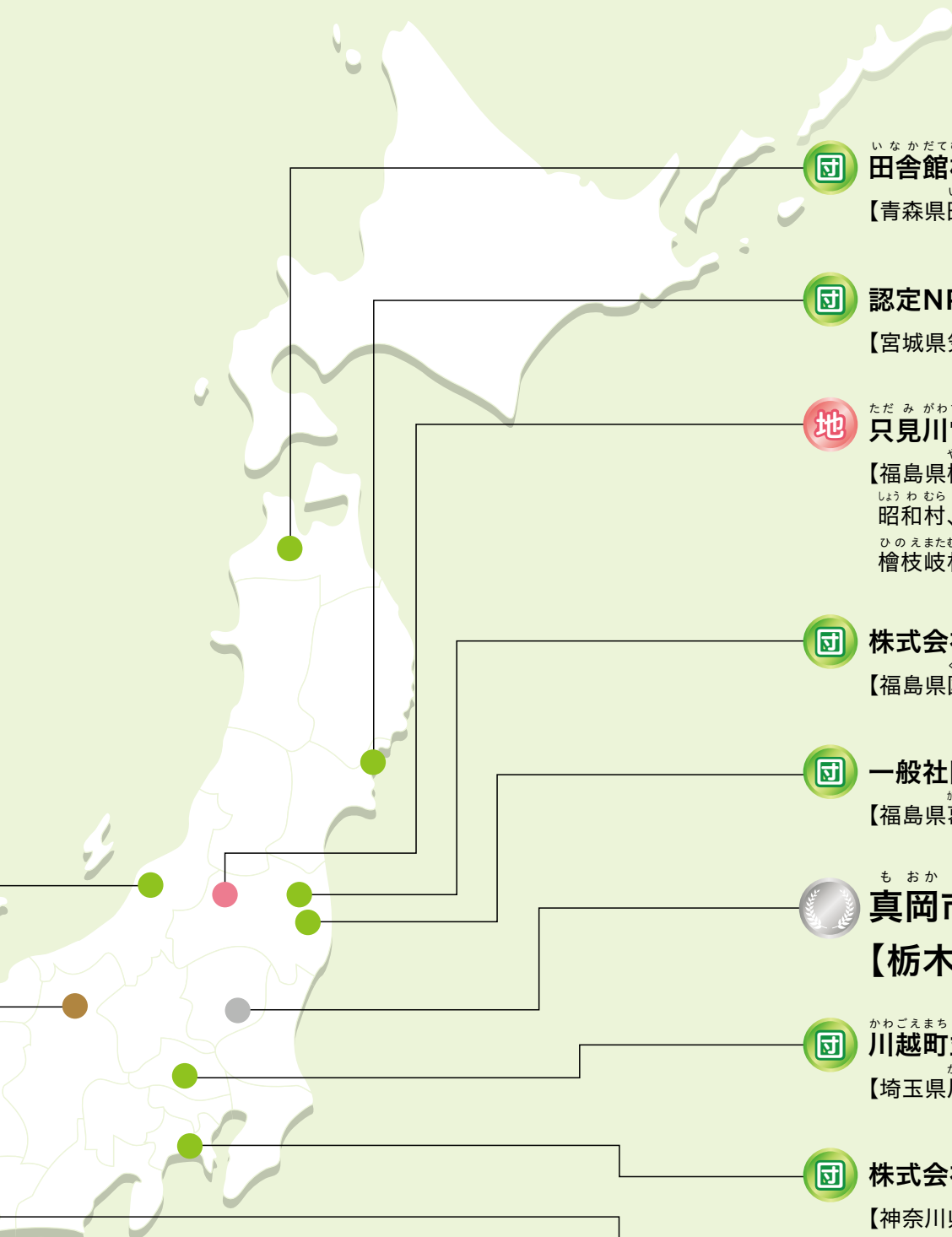
**うどんまるごと循環  
コンソーシアム**

たかまつし  
**【香川県高松市】… 39P**



みやこのじょうし のうぜいしんこうきょうぎかい  
**都城市ふるさと納税振興協議会**

みやこのじょうし  
**【宮崎県都城市】… 41P**



**田舎館村むらおこし推進協議会**  
いなかだてむら  
 【青森県田舎館村】… 13P

**認定NPO法人Cloud JAPAN**  
くらうどじゃぱん  
 【宮城県気仙沼市】… 15P

**只見川電源流域振興協議会**  
ただみ がわでんげんりゅういきしんこうきょうぎかい  
 【福島県柳津町、三島町、金山町、  
やないづまち みしまち かねやままち  
 昭和村、只見町、南会津町、  
しょうわむら ただみまち みなみあいづまち  
 檜枝岐村】… 43P

**株式会社 家守舎桃ノ音**  
やもりしゃものね  
 【福島県国見町】… 17P

**一般社団法人 葛力創造舎**  
かつりよくそうぞうしゃ  
 【福島県葛尾村】… 19P

**真岡市**  
も おか し  
 【栃木県真岡市】… 5P

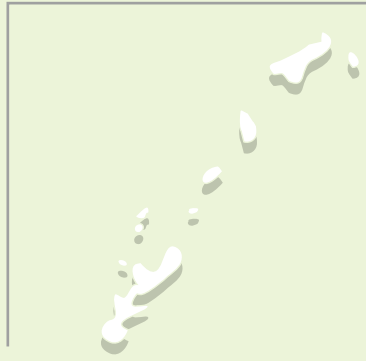
**川越町並み委員会**  
かわごえまち な  
 【埼玉県川越市】… 21P

**株式会社 カヤック**  
かまくらし  
 【神奈川県鎌倉市】… 23P

**SEKAI HOTEL Fuse**  
せかい ほてる ふせ  
 【大阪府東大阪市】… 29P

**奈良・町家の芸術祭HANARART**  
なら まちや げいじゆつさい はなら あと  
**実行委員会**  
じっこう いんかい  
 【奈良県桜井市】… 33P

**一般社団法人**  
やまとあすか  
**大和飛鳥ニューツーリズム**  
あすかむら  
 【奈良県明日香村】… 35P





## 最優秀賞



唐津から始める持続可能なまちづくり

# いきいき唐津株式会社

### DATA

事例名：唐津から始める持続可能なまちづくり  
 所在地：佐賀県唐津市京町1783 KARAE内  
 連絡先：TEL 050-1871-1430  
 E-mail info@ikiiki-karatsu.jp  
 ホームページ：https://ikiiki-karatsu.jp

### 取り組みの概要

2010年に設立されたまちづくり会社で、地元民間企業の増資を受けて独自の収益事業を展開。衰退する商店街の課題解決のため、市民のニーズを反映したカフェや映画館の設営に尽力。映画事業は、定期的な上映会から始め、大林宣彦監督の映画の資金調達やオール唐津ロケを成功させ、法人スポンサー制度など独自の収入源を確保し、2019年、唐津に22年ぶりとなる映画館を商業施設KARAEに開館させた。その他ホテル、焼物ギャラリー、シェアオフィス、観光ツアーなど多事業を展開し、着地型観光誘客にも取り組む。KARAEは若手UIターン者を中心に約45名の雇用創出を実現している。

### 評価された点

- カフェと映画館経営から人材育成、文化振興事業まで行う。複合商業施設の運営管理も行っている点を評価。
- 映画館や観光施設を中心にした取り組みの中でも、持続可能性を目指したことで多くの雇用を創出するなどの確かな実績を評価。
- 多角的な事業展開とその経営力を高く評価。
- ハコを先につくるのではなく、ニーズ調査とイベント的な実施を重ねて利益を出せる結果を経て、ハコをつくり、複合商業施設として多展開を図っている。
- まちづくり会社として取り組みがユニークでレベルも高い。
- まちづくり会社をつくり、計画的にカフェや宿泊施設、映画館などを整備しながら、文化事業を展開し、地域に賑わいと雇用の機会を創出している。
- 商店街の賑わいづくりや映画館運営を通じて、地域の魅力を向上。映画製作を通じた地域活性化のアプローチを実施し、ロケツーリズムの実現にも成功。地域の資産価値の向上や新たな雇用創出につながり、UIターン者が増加。
- まちの声を意識した、幅広い分野へ発展した事業。新たな雇用につながり、商店街の通行量も向上。地域に貢献している会社として著しい事例。
- 超少子高齢化という地方都市の課題に対し、柔軟な発想と実践で挑戦し続けている。地域のニーズを徹底的に調査し、カフェや映画館などの事業で利益を上げ、雇用創出や地域の活性化に貢献。
- 収益につなげているまちづくり会社の仕掛けから学べることは大きい。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

この度は、映える賞をいただきまして、誠にありがとうございます。私たちは、コンパクトシティの要請と地域課題を解決するために中心市街地活性化法に基づいて誕生したまちづくり会社ですが、その運営や事業の推進には想像を超える多くの困難に直面してきました。その度に会社の存在意義を何度も自問自答し、

前進することを諦めずに、今に至ります。まだまだ道半ばですが、このような賞をいただけたことは、一緒に頑張ってきた従業員、関係者にとって大きな励み、喜びであり、勇気となります。この賞を地域の皆さんと分かち合い、唐津から全国の地方都市に希望を届けられるように、これからも精進してまいります。



## 優秀賞



### 真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」

も お か し

# 真岡市

## DATA

事例名：真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」  
 所在地：栃木県真岡市荒町5191番地  
 真岡市役所プロジェクト推進課  
 連絡先：TEL 0285-81-6949  
 FAX 0285-83-5896  
 E-mail project@city.moka.lg.jp  
 ホームページ：<https://www.city.moka.lg.jp/>

## 取り組みの概要

「第2期真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(2020年3月策定)の策定において、市内在住の高校生の居留意識を調査した結果、「真岡市に住み続けたい・将来は戻ってきて住みたい」が2015年55.0ポイントから2019年35.6ポイントに急落する結果となった。真岡市では、高校生や大学生、地域住民が自らの手によるまちづくり社会実験を企画し、自分たちが望む暮らしを創り出すことを目指して、市民協働・官民連携の真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくろう」(通称「まちつく」)を実行した。

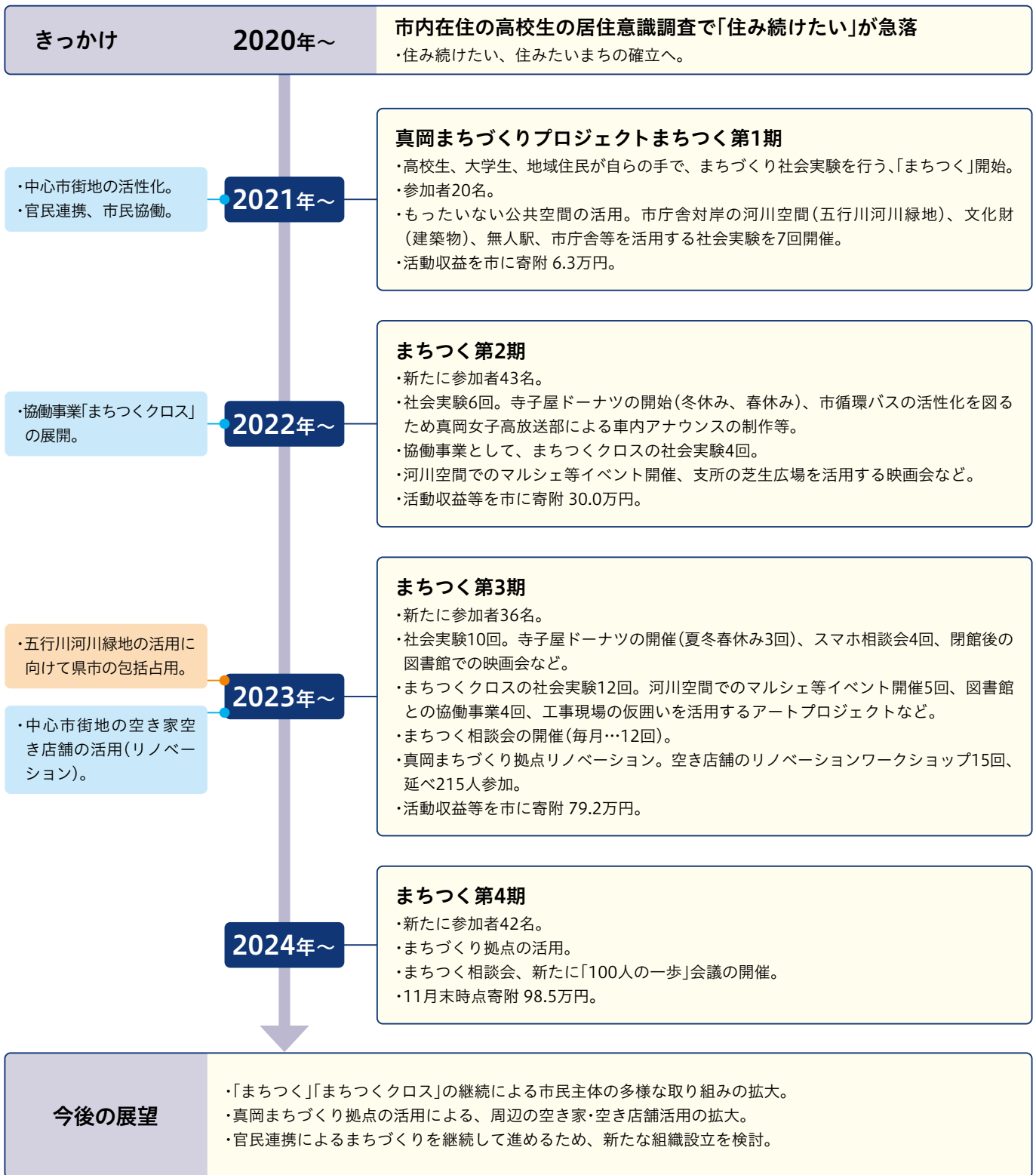
## 評価された点

- 2021年に始まった比較的歴史の浅い活動ではあるが、多様な活動を展開し、来場者等の規模も大きい。今後の展開にも期待できる。
- 参加人数、実績実例数を評価。
- 歴史や街作りを再認識してもらうだけでなく、これからは自分たちの手で街を作っていくという使命感を育てたり未来を創る世代のサポートをしている未来に向けての取り組みを評価。
- 若者が住み続けたいまちをつくるため、若者自身にそれを考え、まちづくりの実践に結びつける取り組みは期待が持てる。
- 若年層を含む住民が、地域課題に向き合い、遊休地の活用とハレの場の創出をしたり、収益事業も行いながら自走に向かっていく点を評価。
- 高校生をふくめて、将来の人材育成に取り組んでいる点を評価。
- 高校生・大学生と地域の方が地域課題に向き合う機会を創出。市民が「自分もやってみよう」と思うような活動を実施し、参加者が年々増加しており、将来的な自立自走に向けた取り組み。
- 高校生や大学生、地域住民が主体となり、市民協働と官民連携でまちづくりを進める「まちつく」を立ち上げ、公共空間を活用した社会実験を通じて地域活性化に取り組んでいる。幅広い参加者を巻き込み、地域愛の醸成に成功している。
- 高校生、大学生、住民を巻き込んでいるところを高く評価。市と住民との連携のあり方が参考になる。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

真岡まちづくりプロジェクト（通称「まちつく」）に関わってくださった多くの方々の取り組みを評価いただきありがとうございます。ごさいます。「まちつく」は「一人の100歩より、100人の一歩」を掲げて、高校

生や大学生、地域の方々が、まちづくりに関わる一歩を踏み出す活動をしてきました。この一歩一歩の取り組みが、今回の受賞につながったと思いますし、今後さらに、次の一歩を踏み出す方が増え、活動が広がっていくように努めてまいります。



農業×観光×空き家 持続可能な農村観光

## 瀬川 知香氏

### DATA

事例名：農業×観光×空き家 持続可能な農村観光  
 所在地：鹿児島県南九州市穎娃町別府503番地4  
 連絡先：TEL 050-3567-1850  
 E-mail [chika10013631@yahoo.co.jp](mailto:chika10013631@yahoo.co.jp)  
 ホームページ：<https://www.fukunoya-ei.com>

### 取り組みの概要

農業が盛んな南九州市穎娃町<sup>えいちょう</sup>で農家の所得向上や地域活性化を目的とし、農村観光で集客を図る取り組みを行っている。過疎化が進む同地域において交流人口拡大に向けた活動は欠かせない。具体的には農村体験プログラム「畑旅」の企画運営、空き家を活用した農泊施設の運営と、それらに係る人材育成を実施している。農業×観光×空き家の組み合わせで、穎娃町ならではの旅の形を提案し、受け入れる側も無理のない持続可能な農村観光に取り組む。

### 評価された点

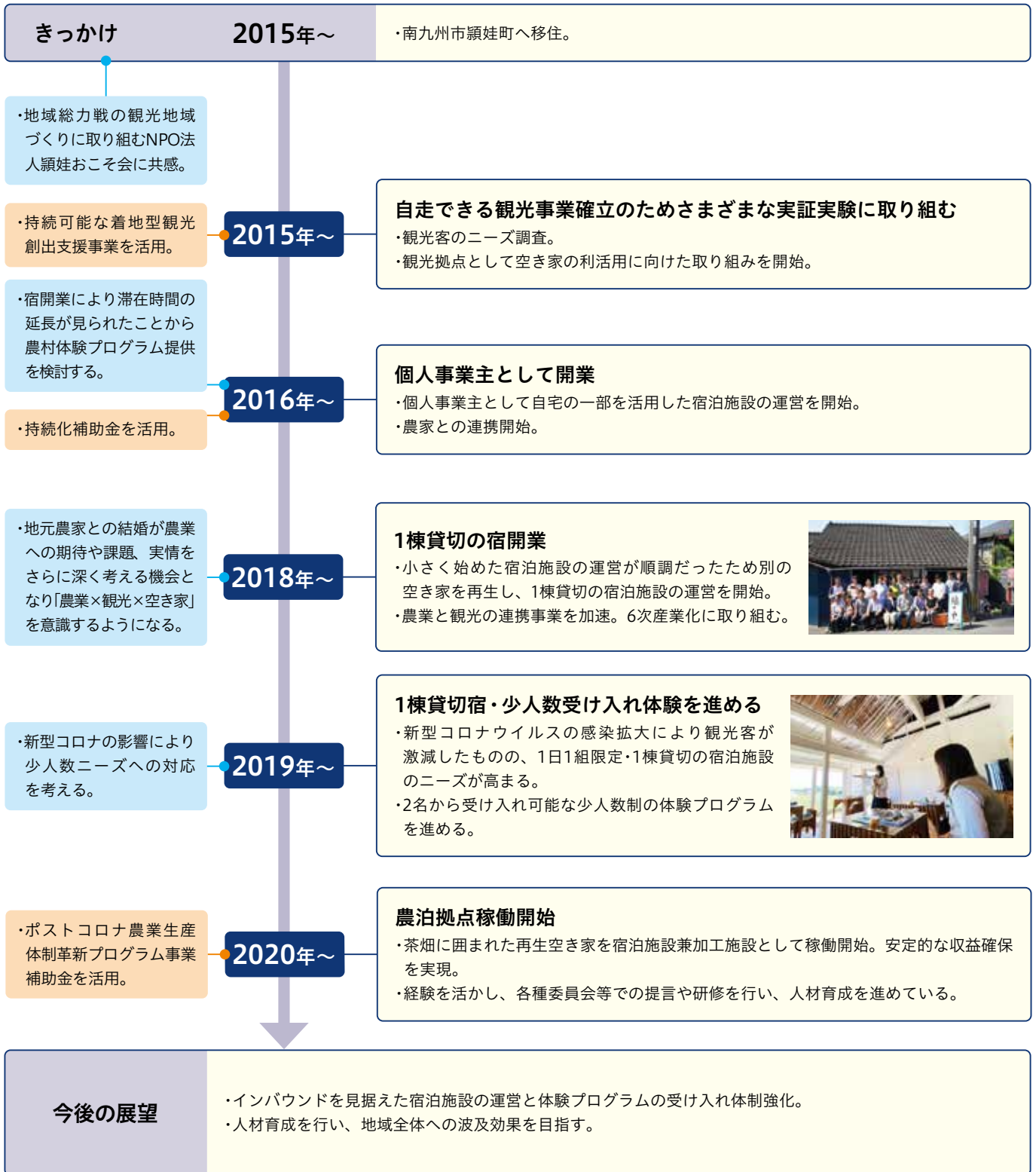
- 2015年に移住。空き家再生した古民家2軒で、それぞれ1日1組限定の宿泊施設運営。農産加工品の開発・製造・販売も行う。
- 長年の実績に裏付けされた趣旨が分かりやすく、地に足付いた活動が群を抜いて心を打った。
- 山村の多い日本ながら、過疎高齢化により、農村観光の受け入れ地の減少は否めない中、企画力を活かし、プログラムの企画や運営、農家の所得向上などに尽力している。
- 農業を観光資源と捉えて、新しい価値を創造。人材育成など周辺への波及効果も高い。
- Uターンした30代女性が自分事として新たな観光ビジネスを創出した好例。人を巻き込む渦になっている。
- 地域で10年近くにわたり、農業、観光、空き家を組み合わせた事業展開とともに人材育成にも取り組んでいる点を評価。
- 地域に根ざして、楽しそうに活動をしている。その楽しさはきっと、訪れる人にも地元の人にも伝わる。実績が素晴らしく、地域活性化の目的を見事に実現。
- 湧き出てくるアイデアを小さいところから丁寧に育てている点を高く評価。これからも楽しみである。



# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

今回の受賞はいつも活動を応援してくれる地域の方やともにまちを盛り上げる仲間たち、そして行政職員の皆様ののお力添えのおかげです。受賞したものの、活動はまだまだ道半ばです。今後ますます精力的に活動に取り組んでいく

ための励みとなりました。訪れる方はもちろん、関わる地域住民も豊かさを感じられる持続可能な農村観光の実現に向けて活動を続けていきます。



「働き方をデザインできる」特定地域づくり事業協同組合で持続可能な人材確保

あ ま ち ょ う ふ く ぎ ょ う き ょ う ど う く み あ い

## 海士町複業協同組合

### DATA

事 例 名：海士町複業協同組合  
 所 在 地：島根県隠岐郡海士町大字福井1365番地5  
 連 絡 先：TEL 050-3649-1377  
 E-mail info@amu-work.com  
 ホームページ：<https://amu-work.com/>

### 取り組みの概要

海士町複業協同組合は、町の観光協会が以前行っていた「マルチワーカー」が「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」により制度化されたため事業協同組合として組織化された。「働き方をデザインする」を合言葉に、地域内の多様な仕事を自分らしく組み合わせる働き方を提供し、地域の人口減少と産業の担い手不足を解消することで、持続可能な地域社会の実現を目指している。

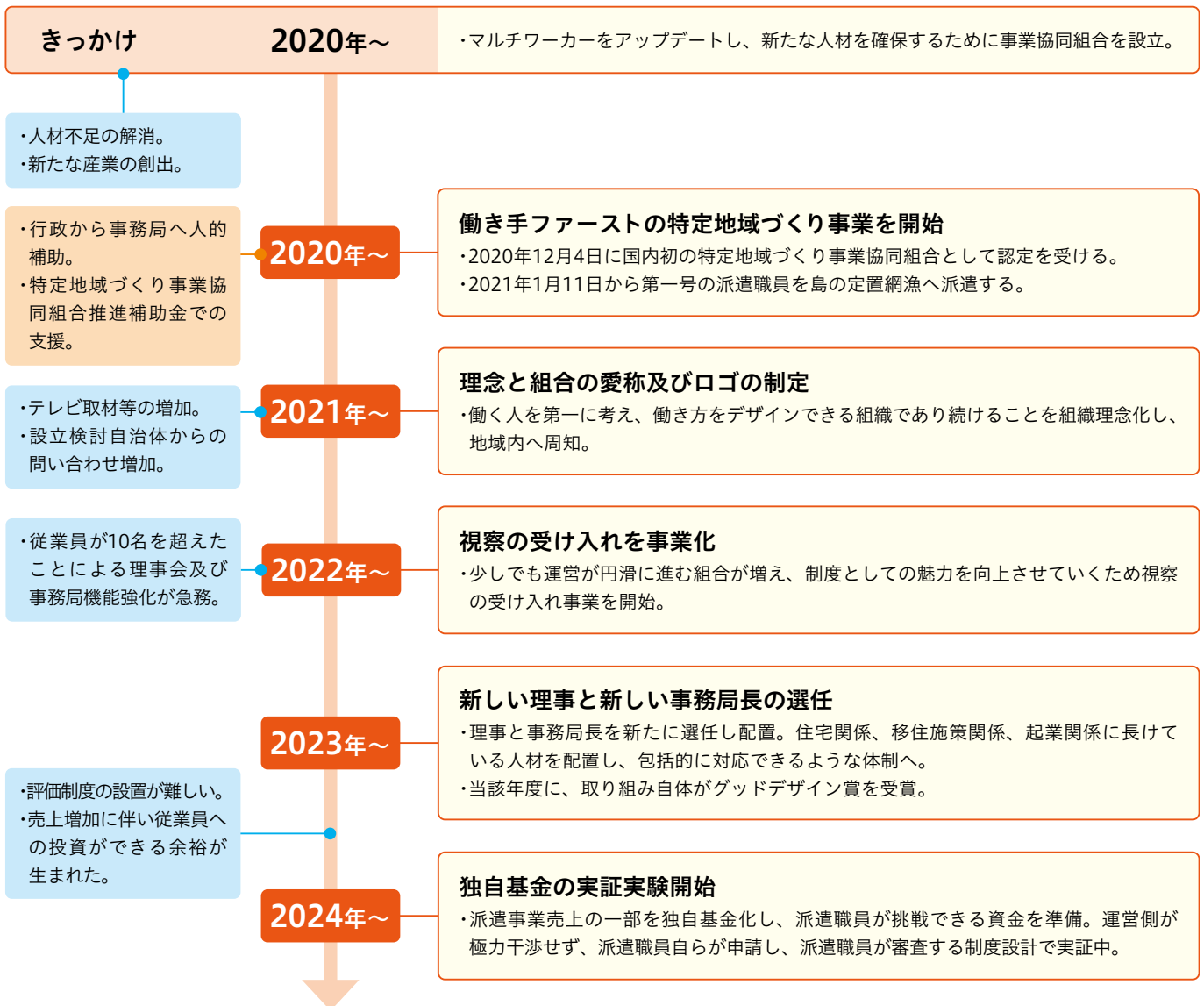
### 評価された点

- マルチワーカーの一番早い制度化事例。国内初の特定地域づくり事業協同組合(2020年)。その後の急速な展開を評価。
- 地方創生の取り組みにおいてリーディング地域といえる海士町での取り組み。海士町の動きが特定地域づくり事業協同組合という新たな制度づくりに寄与したともいえ、極めて優れた取り組みである。
- 働き方をデザインするという視点で、担い手の少ない地域課題の解決、移住促進につながっている。
- 企業ではなく地域に就職するという人口減少時代の地域に求められているイノベーション。
- 複数の仕事と職場を知る機会を持つとともに、地域の担い手不足解消に向けた取り組みを展開し、成果を上げてきている点を評価。
- 地域の人材不足の解消、新たな雇用の創出、人口減少対策には地元企業の雇用が重要であり、働き手ファーストの実施への取り組み、「島で働く」という行為に価値を付加するブランディングができていた点を評価。
- 「働き方をデザインする」を理念に、地域内の多様な仕事を新たな働き方を提供。人口減少と産業赤字を解消し、持続可能な地域社会を実現する勇気を高く評価。
- 働き手ファーストの労働者派遣事業は、新しいスタイルとして好事例。
- マルチワーカーによる地域課題解決(人口減少、人手不足)の取り組み。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 今後の展望

- 1. 特定地域づくり事業協同組合補助金を活用し、継続的に雇用を拡大**  
特定地域づくり事業協同組合補助金を活用し、現時点で30名の派遣職員雇用を目指す。
- 2. 特定地域づくり事業協同組合そのものの認知・魅力向上**  
関係性のある組合や先進的な組合と協働し、特定地域づくり事業協同組合そのものの認知向上と魅力向上を図る。
- 3. 建設業の複業化で人材確保**  
建設業には人材派遣ができないため、在籍出向制度を活用し、興味はあるが踏み出せない人材へ新たなアプローチをする。
- 4. 半看半Xや専門的職業の複業化**  
看護師と地域の事業所の仕事をかけ合わせる「半看半X」により、地域内の事業所に看護師が存在する状態を作り、予防医療を推進する。また、バス運転手や教師などの専門職を複業化し、新たな側面から人材獲得を目指す。
- 5. 独自基金の設置と推進**  
海士町複業協同組合のためになることに対し、派遣職員が挑戦できる資金を派遣事業の売上金から捻出する。この資金での投資が最終的に事業化し、組合員となり、複業協同組合を利用する好循環を目指す。

## 受賞者のコメント

この度、海士町複業協同組合が明日への希望賞を受賞することができ、大変光栄に思います。これまで地域の課題解決に向けて取り組んできた私たちの活動が評価されたことは、組合員や地域住民の皆様の支えがあってこそ

成果です。この受賞を励みに、これからも複業という新たな働き方を通じて地域の魅力を高め、持続可能な社会を実現するため、さらなる挑戦を続けてまいります。海士町が「選ばれる地域」となるよう、引き続き尽力していきます。



## 明日への希望賞



作りたい未来はみんなで作る、ワクワクする仕掛けを

たむらひでひこ

# 田村 英彦氏

### DATA

事例名：レボ系ワーケーション、温泉MaaS、  
まちづくり資源まるごと活用推進事業、  
サトヤマフード、千曲川ゴーランド

所在地：長野県千曲市大字寂蒔177-1

連絡先：TEL 090-1957-1073

E-mail tam@furoshiki-ya.co.jp

ホームページ：<https://furoshiki-ya.co.jp/workationlab>

<https://bunkasai.machi-zukuri.com>

<https://satoyamahood.peatix.com>

<https://page.line.me/756ysvte>

### 取り組みの概要

長野県、そして千曲市に惚れ込み、東京から移住。豊かで穏やかな地域の良さを残しつつ地域内外の人が交わり、現代社会に合わせる形で、活発に人が人を想う社会事業を増やしていくことをライフワークとしている。具体的には、観光庁のワーケーション先進取り組みとしても取り上げられる「レボ系ワーケーション」、千曲市でのモビリティ社会実験を継続的に行う「温泉MaaS」、千曲市から社会事業に取り組む機会と人を創発する「まちづくり資源まるごと活用推進事業」、地元が愛するあんずの里を持続可能な場所につなげる「サトヤマフード」、しなの鉄道利用から広域回遊を生み出す「千曲川ゴーランド」など多くの事業を、それぞれ協業体制を作りながら、多くの人とともに推進している。

### 評価された点

- 2017年に移住。ワーケーション事業から始まり、多様な事業を展開している。「場づくり」と「機会づくり」を推進している点を評価。
- 事業の広がり、他地域への発展性を高く評価。今後の継続性へ期待。
- ワケーション事業や温泉MaaSなどの取り組みを通じて、地域づくりのプラットフォーム構築を図ってきている点を評価。
- 自身がまちづくりプレイヤーの見本となり、多様な事業を形にすることで関わりを増やし、自身の取り組みだけでなく、

- プラットフォームとしての役割も果たしている点を評価。
- 千曲市のまちづくりの基本理念「共生」「交流」「協働」を理解し、“人のつながり”と“多様な価値観”を基盤とした取り組みを実施することで、市の関係人口の創出に大きく寄与している。
- 千曲市への愛着を基に、地域の良さを活かしつつ現代社会に適応した多様な社会事業を展開。また、ワーケーションやMaaSなど、社会を変える集団的インパクトを創出する取り組みが評価され、地域活性化への貢献を評価。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

## きっかけ

2017年～

- ・長野市出身の妻を通して長野を深く知り、暮らしや子育ての環境を気に入って千曲市に移住。住みながらより良いまちづくりに関わる事業づくりに着手。

- ・台風19号やコロナ禍での観光事業者の苦境を肌で感じる。
- ・地域内外の人の交流が少ないことに課題意識。

2019年～

- ・イベント開催ごとに多くの参加者が訪れ、次々とプロジェクトが生まれる。
- ・新しい地域内外交流コンテンツとして地域の知名度の向上、関係人口創出の取り組みとして長野県や全国の協議会との連携が強まる。

### ワーケーション事業開始(ワーケーションまちづくり・ラボ)

- ・遊休資産を活用し、内向的な地域づくりから地域内外が交わる場づくりへ。
- ・トレインワーケーションの初実施。
- ・アイデアソンをプログラムで実施。
- ・レボ系ワーケーションとしてブランド化。



- ・ワーケーション来訪者増により車での送迎体制に限界。公共交通やタクシーを使った取り組みが求められる。

2020年11月～

### 温泉MaaS開始(ワーケーションまちづくり・ラボ)

- ・温泉MaaSアイデアソンの実施。
- ・LINEでMaaSアプリの先行事例。
- ・タクシー、公営バス、鉄道とデジタル切符で連携した社会実験。



- ・千曲市のまちづくりプレイヤーが増えてきて、それをつなげて協働する場。

2021年9月～

### まちづくり資源まるごと活用推進事業開始(ちくままちづくり文化祭実行委員会)

- ・行政・商工団体・民間の協働参加。
- ・年1回のちくままちづくり文化祭。
- ・ワクワク妄想会議、パチパチ実践会議などのとにも企てる場を企画・運営。



- ・地域内外の交流から多くの出会いやセレンディピティが生まれて多くのプロジェクトや人同士のつながりが生まれ可能性が広がる。

2023年7月～

### サトヤマフード開始(ファイネスト合同会社)

- ・あんず花見/実の収穫時期以外の里山活用イベントの継続実施。
- ・イベントを通じたコミュニティ。
- ・里の持続性を高める杏の木を元にしたシェア農園制度の試行実施。



- ・地元で愛される千曲市のあんずの里を存続する取り組みへ関心。広大な農地を持つ農園オーナーがシェア農園への興味。

2023年10月～

### 千曲川ゴーランド開始(千曲川ゴーランド推進チーム)

- ・しなの鉄道ほか事業者連携でデジタルフリーパスプラットフォーム設立。
- ・鉄道の企画切符を通じた広域連携の促進。



- ・ワインをはじめとした観光を中心とした地域の広域連携コンテンツ増。

## 今後の展望

- ・広域での連携まちづくり。モビリティ連携の機運上昇。コンテンツ共創。
- ・自然や地域資源のシェアリングコミュニティ事業の拡大。

## 受賞者のコメント

今回の表彰、誠にありがとうございます。今回私の名前で事例として書かせてもらっている事業は全て、私が一部を担ったに過ぎず、代表して応募させてもらったに過ぎません。私の周りには、面白く、おしゃべりとおせっかいが好きで、時にケンカもしたり

また仲直りしたり、人間臭く、そしていい意味で「青春している」大人がたくさんいます。そんな仲間と一緒にできた活動でこの賞を受賞することができ光栄であるとともに、これからもまちづくりや社会づくりにワクワクする一石を投じていきたいと思っています。



## 田んぼアートによる村おこし事業

い な か だ て む ら

# 田舎館村むらおこし推進協議会

### DATA

事例名：田舎館村むらおこし推進協議会  
 所在地：青森県南津軽郡田舎館村大字田舎館字中辻123-1  
 田舎館村役場内  
 連絡先：TEL 0172-58-2111  
 FAX 0172-58-4751  
 E-mail [muraokoshi@vill.inakadate.lg.jp](mailto:muraokoshi@vill.inakadate.lg.jp)

### 取り組みの概要

米づくりの楽しさ、農業の面白さをより多くの人に知ってもらい、村で盛んな米づくりを村おこしにつなげるため役場職員の発案で1993年から始まった事業。田んぼをキャンパスに見立て色の異なる稲を使い巨大な絵を描く。現在では使う稲の種類が増え、図柄もより精巧になっており、田植えや稲刈りイベントには村内外から多くの参加者が集まる村の一大イベントとなっている。

### 評価された点

- 地域の知名度を上げることに大きく貢献したユニークなイベントである。田植え体験ツアーや稲刈り体験ツアーなど、観るアートだけでなく活動にも広がっている。
- 観光資源のない街から地場産業をアートに変換させ若い人たちが巻き込んで観光誘致につなげるという規格外の発想とクオリティに感銘を受けた。
- 稲作体験ツアーや田んぼアート等、既存の地域資源を活用した地域づくりが、産業観光まちづくり大賞などの評価につながっている。
- 継続した取り組みにより、観光資源が無かった地域に

多くの人が訪れるようになり、地域の知名度が向上。地域一体となって稲の生育から準備を行い、住民の郷土愛醸成にもつながっている点を評価。

- 1993年から田んぼアートの長年の継続性及びそれによる知名度の向上を高く評価。
- 田んぼアートの嚆矢である。年々活力が奪われていく過疎地域で、稲穂の色の種類を工夫し、遠近法の駆使等、来訪者の立場から絶えず工夫を重ねている。東北人の無骨だが無言で黙々と行う精神性を感じ取れる。

## 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

きっかけ

1993年～

・米づくりを村おこしにつなげる方法を思案。

・村にはこれといった観光資源がなかった。

・村と連携し、当時は関係者など合わせて協力者は100名程度。

1993年～

### 「稲作体験ツアー」の実施

・弥生時代から続く北方稲作文化を伝え、昔ながらの手作業で田植え、稲刈りを行い、米づくりの楽しさ、農業の面白さを知ってもらうことを目的に「稲作体験ツアー」を実施。  
・色の異なる3種類の稲を使用し、当時は稲文字と呼ばれていた。



・翌年から遠近法を取り入れるきっかけとなる。稲の種類や作品の緻密さも増す。

2003年～

### 田んぼアート

・名画「モナリザ」に挑戦するも遠近法を取り入れていなかったため展望台から見ると少し太めのモナリザに見えてしまう。  
・この頃から田んぼアートと呼ばれるようになる。



### 2会場での展示

・道の駅いなかだて内に第2田んぼアートを造成。村内2か所での展示が開始される。  
・2016年には両会場合わせて過去最高の34万8千人の観覧者が訪れる。



2022年～

### 2年ぶりの観覧再開

・新型コロナウイルス感染症の影響で、2年ぶりの観覧再開となる。遠近法を取り入れるきっかけとなったモナリザに再挑戦。



### 今後の展望

・これからも継続して取り組みを行っていきたい。  
・全国各地にある田んぼアート団体と連携して田んぼアートというブランドをより大きくしていきたい。

### 受賞者のコメント

当協議会の取り組みをご評価いただき、このような賞を受賞できたことはとてもうれしく光栄に思います。今では村を代表するコンテンツにまで成長した田んぼアートを筆頭に、一人でも多くの方に村を認知していただき、お越しいただき

たいとの思いでこれまで活動を続けてきました。これからも「田んぼアート発祥のむら」として、皆様のご期待に沿えるような作品づくりを目指しながら、さまざまな活動を通して地域活性化に貢献できるよう努めていきます。



# ふるさとづくり大賞 団体表彰



## 関係人口創出プロジェクト

く ら う ど じ ゃ ぼ ん

# 認定NPO法人Cloud JAPAN

## DATA

事 例 名：認定NPO法人Cloud JAPAN  
 所 在 地：宮城県気仙沼市長磯前林55番地3  
 連 絡 先：TEL 0226-29-6514  
 FAX 0226-25-7523  
 E-mail info@cloud-japan.org  
 ホームページ：https://cloud-japan.org/

## 取り組みの概要

総務省の「ふるさとワーキングホリデー推進事業」の活用を中心とした関係人口創出事業を行い、2021年7月から2024年9月の約3年間で参加者345名、再訪者134名、移住者25名を達成した。震災ボランティア参加者を関係人口と捉えて、地域の魅力を基軸とする12年間の活動(ボランティア派遣、観光客誘致、コロナ禍の関係継続、ふるさとワーキングホリデー事務局受託)に意味付けをすることを目的としている。

## 評価された点

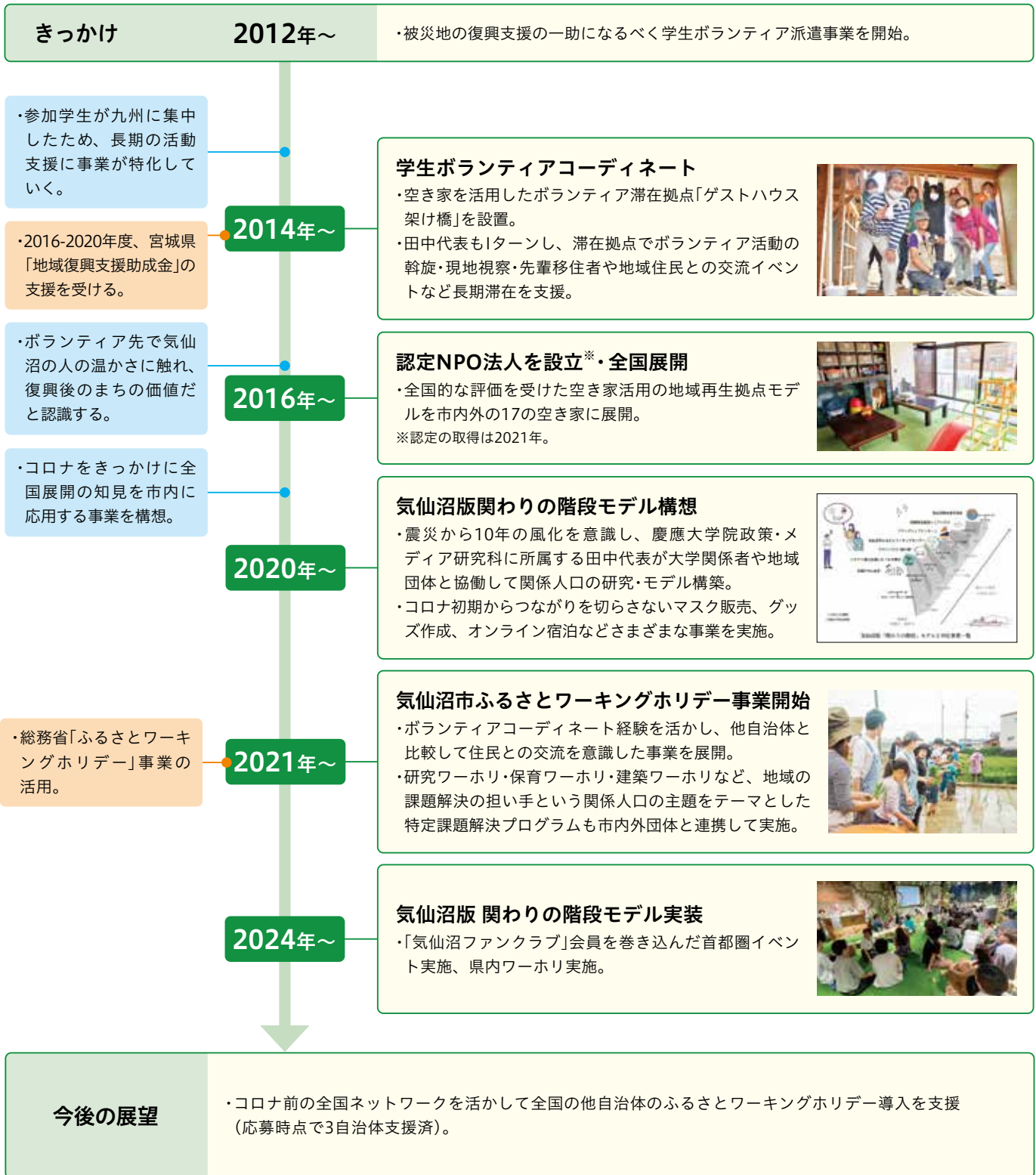
- 長年の取り組み実績と全国への広がりを評価。
- 気仙沼に残る若い世代で構成されており、ふるさとワーキングホリデーも元気なコミュニティができているのだと想像する。「ただいま」「おかえり」と言い合える居場所作り、第二のふるさと作りとしての取り組みを評価。
- 理論に基づき、関係人口の拡大に着実に取り組み、着実に成果を出している点を評価。
- 東日本大震災からの復興支援を契機として、着実に発展し、成果を上げている点を評価。
- 震災ボランティアのコーディネートのノウハウをふるさとワーキングホリデーに応用し、地域独自の特性を活かした取り組みを実施することで関係人口が増加。ふるさとワーキングホリデー参加者数の受け入れ日本一を達成。
- 関係人口として地域に貢献するための事業を活用して、移住者25人につながった点を評価。
- ふるさとワーキングホリデーの成功事例であり、参加から移住につなげる仕掛けは他のエリアでも参考にできる。
- 被災地で生まれたビジネスモデルについては、女川町でも見られる取り組みであるが、熊本地震などにも横展開されている(考え方を他地域にカスタマイズ)点でユニーク。
- 空き家を活用したボランティア滞在拠点事業を展開、さらにふるさとワーキングホリデー事業を活用した関係人口創出に取り組み成果を上げている点を評価。



# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

上述の通り、私たちの活動は大学生1年生の小さな小さな行動から始まりました。地域とのつながりもなく、世の中の常識も分からない中で、12年間絶え間なくご協力いただきました皆様あっての本賞受賞だと考えております。

今も私たちだけでは無力ではありますが、引き続き行政・民間・大学とのコレクティブインパクトを目指すとともに、一学生の想いから世の中を変えていけることを発信し続ける所存です。



## ふるさとづくり大賞 団体表彰



過疎地域の駅前エリアの再生

# 株式会社 家守舎桃ノ音

### DATA

事例名：過疎地域の駅前エリアの再生  
所在地：福島県伊達郡国見町大字山崎字館東14-8  
連絡先：TEL 024-573-9013  
E-mail [yamorisyamomonone@gmail.com](mailto:yamorisyamomonone@gmail.com)  
ホームページ：<https://yamorisyamomonone.com>

### 取り組みの概要

福島県国見町は2022年に過疎地域に指定され、人口減少と高齢化に伴う地域経済の衰退が危惧されている地域である。主要駅のJR藤田駅周辺は好立地にもかかわらず駐車場や空き地が目立ち、人の流れを失っていた。駅前エリアの再生を目指し、飲食店やシェアオフィスが入った複合施設や住宅地、宿泊施設などを民間事業として整備し、事業者の誘致や移住者の増加などの成果を上げている。

### 評価された点

- イベント開催を端緒に複合施設や住宅の建設などに広げ、民間事業で収益をあげながら、地域の価値を創出。
- 新たな交流が生まれる施設ができて、駅前の雰囲気が明るくなった。地元の人にも遠方の人にも、駅を降りた時の印象や「ここに住んでよかった」と思ってもらえることが大事。先進性や効果も高く、全国のための参考事例になる。
- 過疎地域に指定されている地域でハブとなる拠点整備から事業者誘致や移住者の増加に取り組まれている点がクリエイティブな活動となっていることに今後の可能性を感じた。
- 駅前エリア再開発による地域おこしを補助金等によらずに運営し続けている点は素晴らしい。
- 民間事業で国見町に家賃を支払うという自立した取り組み。何もない駅前エリアに延べ15業者、移住者も延べ20名をひきこんでいることを評価。エコハウス、地域の食材などに進化させ、過疎地域でないといわれるライフスタイルを実現させたいなど、野心的な取り組みである。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

## きっかけ

2016年～

・代表取締役の上神田健太が、7年間勤めた東京都庁を退職し、福島県国見町にある妻の家業(建設業)を継ぐ形でJターン。

・大学で学んでいた都市計画・まちづくりに対する研究への想いを実現するべく起業を決意。

・ポテンシャルの高いはずの駅前エリアがまったく有効活用されていないことに気づく。

2018年～

### 株式会社 家守舎桃ノ音 設立

・衰退に向かう町を自分たちの手で良くしたいと思い立った地元有志でまちづくり会社を設立。  
・最初は町内でのマルシェなど、イベントを通じて町の魅力向上に努めた。



2019年～

・初期費用の一部は県の補助。

### 「Co-Learning Spaceアカリ」オープン

・駅前にあった元縫製工場を町から借り上げ、リノベーションして複合施設として再生。



・駅前の駐車場は、利用率が30%ほどで空車が目立つ状況。2度の地震に見舞われ隣接する土地所有者の住まいも解体。

2022年～

### 国見エコタウン「森のスミカ」事業開始

・高性能エコハウスだけが立ち並ぶ住宅地の開発を計画。  
・1棟目となる住宅が2022年10月に完成。



2024年～

### 「CAFE & HOTELカジツ」オープン

・「森のスミカ」の2棟目で、1階が地域産の果物を使ったカフェ、2階が1組限定の宿泊施設。  
・2階の宿泊施設はエコハウスの性能を体感できる施設としても機能。



## 今後の展望

・まずは、国見エコタウン「森のスミカ」の完成を着実に進め、居住者や移住者の増加を目指す。  
・町内の他のエリアでの空き物件等の活用に踏み切る。

## 受賞者のコメント

日本の過疎地域と呼ばれるエリアでは、長年に渡り衰退の一途を辿ってきたように思います。その要因の1つは、人口が増加時代に作られた仕組みが、人口が減少時代には合わなくなったからだと考えています。しかし、日本の過疎地域には、まだまだ地域

資源が眠っていて、それらを発掘・再編集することで地域経済を活性化させる取り組みが重要であると考えています。弊社で取り組む福島県国見町の駅前エリアの再生事業が、これからの日本の過疎地域の在り方を再考するきっかけになれば幸いです。



私たちが望む、私たちの新しい関係人口のムラづくり

かつりよくそうぞうしゃ

## 一般社団法人 葛力創造舎

### DATA

事例名：私たちが望む、私たちの新しい関係人口のムラづくり

所在地：福島県葛尾村葛尾村大字落合字夏湯134

連絡先：TEL・FAX 0240-23-6820

E-mail [info@katsuryoku-s.com](mailto:info@katsuryoku-s.com)

ホームページ：<http://katsuryoku-s.com>

### 取り組みの概要

2011年の原発事故により、一時居住人口が0人となった葛尾村において、関係・活動人口の増加により成り立つ新しいムラづくりのかたちを生み出した。村内に居住する215世帯にヒアリング調査を行い、その結果をもとに新しい関係人口のムラづくりのビジョンと戦略を策定した。魅力の可視化、地域と関わる機会づくりと、発信を推進している。

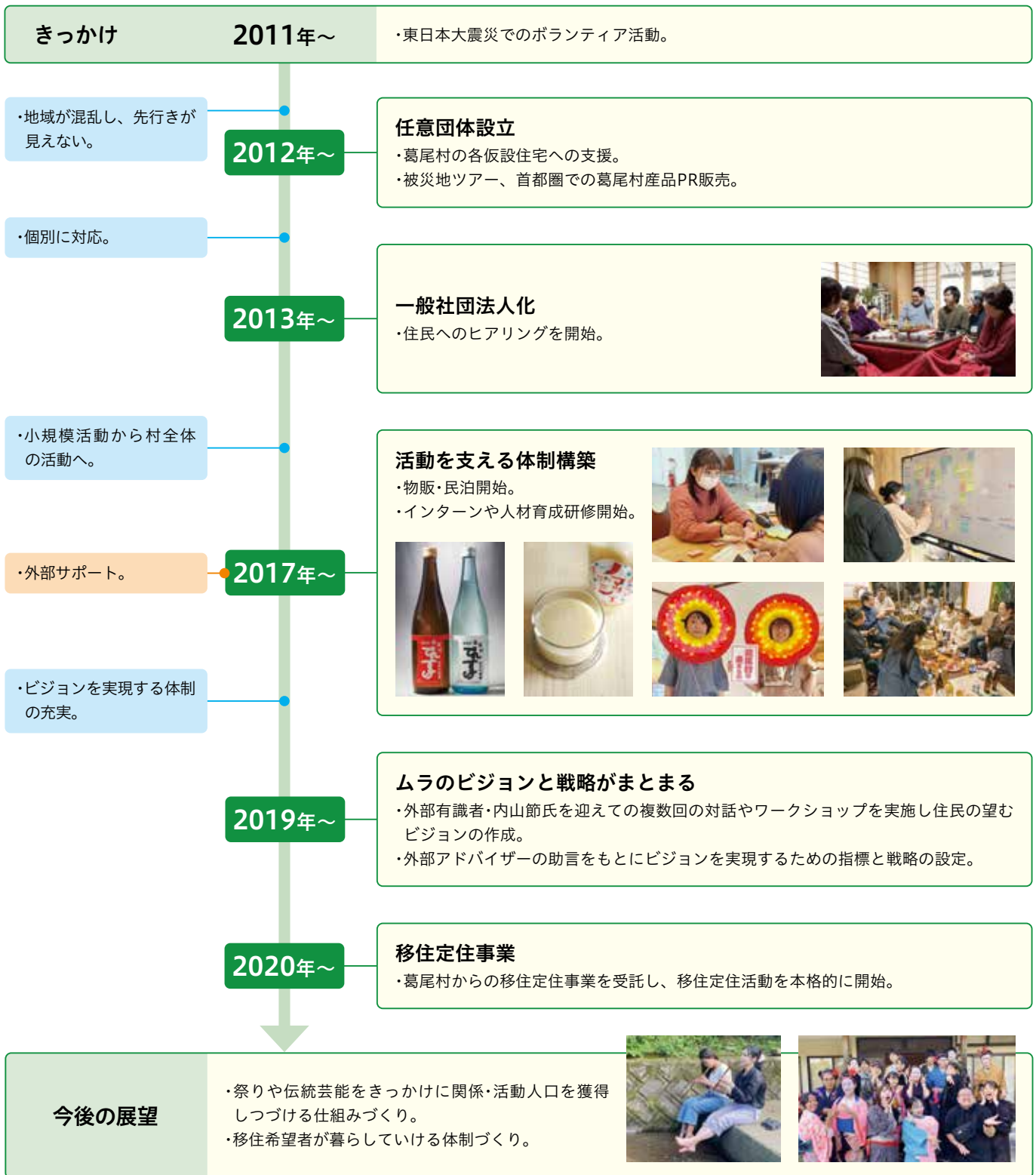
### 評価された点

- 居住人口0人からの活動という、厳しい状況の中でのサステナブルな取り組みとして極めて高い評価ができる。能登半島など、他の被災地においてもモデルケースとなる取り組み。
- 住民0からの復活にける想いや取り組みが素晴らしい。
- 極めて不利な状況からスタートして、チャレンジしている点に敬意を表したい。
- 新しい復興の形を模索している。
- 福島原発被災地において0→1の取り組みを評価したい。少人数少額の取り組みや、地元の商品を買ってもらったお礼に、買ってくれた人の応援をするという、活動人口の逆張りの新規性が認められる。
- 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故後、村の存続を目指して、住民ヒアリングや関係人口創出などの取り組みを積極的に推進してきた点を評価。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

この度は私たちの活動に栄えある賞をいただきありがとうございます。2011年に、過疎が進んでいた村は、震災そして原発事故により長期避難を余儀なくされました。その時、全国、世界の皆様からご支援をいただきました

が、その結果を少しだけお伝えできたのではないかと思います。また、私たちの経験を他の地域に伝えていければと思います。最後に、これまで歩んできた村民および関係者の皆様に感謝申し上げます。



# ふるさとづくり大賞 団体表彰



## 川越町並み委員会による町並み保存活動事業

かわごえまちな

# 川越町並み委員会

### DATA

事例名：川越町並み委員会  
所在地：埼玉県川越市幸町6-7 ミリオンビル3階  
川越一番街商業協同組合事務所内  
連絡先：E-mail machinami@kuranokai.org  
ホームページ：<https://kawagoe-ichibangai.com/story/>

### 取り組みの概要

1987年に発足し、歴史的資産を活かしたまちづくりのルールとなる「町づくり規範」を1988年に策定した。住民による自主的なまちづくりの協議機関として、建築行為等に対する助言・提案を行っており、蔵造りをはじめとする歴史的景観の維持・向上に寄与している。また約5年間の改訂作業の末、2023年に「町づくり規範」を改訂するなど、発足から37年経った現在も積極的な活動を続けている。

### 評価された点

- まちづくりの規範となるルールブックを早くも1988年に刊行し、2023年に改訂している。地道な活動を続けている。仕組みは市の景観コントロールのプロセスの中にも位置づけられている。
- 観光地として多くの人たちを惹きつける大きな魅力のひとつが、川越の町並みである。その町並みを守り育ててきた活動は高く評価すべき活動である。
- 継続的に取り組み続けている点、現代的な課題に対応しようとしている点。
- 35年以上にわたり、町並みを残す活動を続けており、「町づくり規範」の制定とともに、行政とも連携しながら景観保全に取り組んできた点を評価。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

この度は、栄誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。この受賞は、川越町並み委員会が、地域住民や川越一番街商業協同組合、NPO川越蔵の会、関係諸団体と連携し、長きに亘り地道に活動してきたからだと思えます。これから

も「自分たちの町は、自分たちで守り、創っていく」という気持ちを地域の皆様と共有し、より良い町づくりを目指していく所存です。



面白法人カヤックによるジブンゴトとしてまちをつくる鎌倉資本主義の取り組み

## 株式会社 カヤック

### DATA

事例名：面白法人カヤックによるジブンゴトとしてまちをつくる鎌倉資本主義の取り組み  
 所在地：神奈川県鎌倉市御成町11-8  
 連絡先：TEL 0467-61-3399  
 E-mail info@ml.kayac.com  
 ホームページ：https://kayac.com/

### 取り組みの概要

鎌倉に本社を構える面白法人カヤックでは、地域の豊かさを経済資本だけでなく、地域環境資本・地域社会資本も含めた3つの資本ではかる「地域資本主義」という考えのもと、「まちの保育園」「まちの社員食堂」をはじめとする「まちの」シリーズで市民共創につながる取り組みを推進し、コミュニティ通貨「まちのコイン」を活用した鎌倉市SDGsつながりポイント事業で、身近なSDGsにつながる市民の行動変容を促す事業を進めている。また、代表機関・慶應義塾大学、幹事自治体・鎌倉市とともに幹事企業として取り組んでいる「リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点プロジェクト」では「循環者になるまち鎌倉」を目指したプロジェクトを推進している。

### 評価された点

- 企業ベースでまちづくりが広がり、楽しみ事として住民や移住者が参加している点を評価。
- 民間企業でありながら、地域社会に確実に大きな変化をもたらしている点を評価。
- 企業の地域貢献・社会貢献事例として先駆的。
- 「まちの」シリーズ等地域に根差した施策による、人と事業者、地域のつながりづくりのみならず、市内経済の活性化にも寄与。「鎌倉市SDGsつながりポイント事業」として、「まちのコイン」を利用し、SDGsの取り組みへの行動変容や人と人のつながりを醸成を目的とした、コミュ

- ニティ通貨「クルッポ」の運営に魅力がある。
- 「地域資本主義」の理念のもと、経済資本だけでなく地域環境資本や社会資本も重視し、市民とともに地域の豊かさを再定義している。「食堂」などのプロジェクトや、「まちのコイン」を活用したSDGs推進事業により、市民の行動変容を問い、持続可能な地域社会づくりに貢献。独自の価値観を持ち、地域共生を目指す姿勢を評価。
- 地域の環境や人々のつながり創出に向けて、保育園や写真食堂など、ユニークな取り組みを進め、デジタル地域通貨の活用なども展開している点を評価。



# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

きっかけ

2002年～

・鎌倉本社移転。鎌倉のIT企業らとカマコンを設立するなど、まちとの関わりを徐々に深める。

2016年～

## 鎌倉資本主義の考案

・地域の豊かさを環境・社会・経済の3つの資本ではかる地域資本主義を提唱。2017年Forbes JAPAN「日本を元気にする88人」に代表柳澤が選出。2018年書籍「鎌倉資本主義」を出版。



2018年～

## 新社屋竣工、まちのシリーズスタート

・まち全体をオフィスに見立てた新社屋竣工と同年、鎌倉で働く人に向けた「まちの社員食堂」「まちの保育園」を開始。



・社員が全員入る建物がなく、まちにオフィスが点在することに。

・かながわSDGsパートナーに。

2019～  
2022年

## 起業支援施設「HATSU」

・オープンインベーション型となるコワーキングスペースのコンセプト開発とWebサイト制作。



・神奈川県SDGsつながりポイント事業、鎌倉市SDGsつながりポイント事業。

2021年～

## 鎌倉市SDGsつながりポイント事業

・自社開発するスマホアプリ「まちのコイン」を利用してSDGsにつながる市民の行動変容を促し、人と人のつながりを生むコミュニティ通貨「クルッポ」を運営。市内378の事業者と連携し、17,000人を超える利用者に。



・鎌倉市がSDGs未来都市及びSDGsモデル事業に。

2022年～

## リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点

・代表機関・慶應義塾大学、幹事自治体・鎌倉市とともに幹事企業としてしげんポストや鎌倉サーキュラーアワードに取り組む。

・共創の場形成支援プログラム。

## 今後の展望

・「循環者になるまち」実現に向け、鎌倉の3つの地域資本を高めて市内外の人たちが愛着をもてるまちへ。

## 受賞者のコメント

私たち面白法人カヤックは、鎌倉に本社を置き、企業は地域とともに成長するという「地域資本主義」の考えを大切にしています。経済合理性だけでなく、人と人のつながりや自然・歴史・文化を活かすことで、より豊かで愛着

のあるまちづくりを目指し、鎌倉を拠点に多様な取り組みを進めています。これからも、地域とともに成長し続ける企業として、創造的で面白い事業を通じて、鎌倉の魅力を広げ、持続可能なまちづくりに貢献してまいります。



## ふるさとづくり大賞 団体表彰



商店街で魅せる楽しく働く大人の姿

# つばめまんなか商店街

## DATA

事例名：商店街で魅せる楽しく働く大人の姿

所在地：新潟県燕市宮町6-26

ホームページ：[https://www.instagram.com/tsubame\\_chupi/](https://www.instagram.com/tsubame_chupi/)

## 取り組みの概要

地元企業が合同でインターン生用の宿泊施設を建設したのを契機に、地域を盛り上げるイベントを行う若者や新しい事業を展開する若手事業者が徐々に集まり、元々商店を営んでいた店主も加え、地域活性化に向けた動きが継続されている。さまざまなステークホルダーの取り組みにより、子どもや若者がまちへ足を運び、訪れた先で楽しそうにまちづくりをする大人の姿を見続けることで、若者たちはまちへの新たな価値と愛着を感じ取りながら育ち、まちへの貢献を始める。人材育成とまちの活性化を合わせて図ることを目的とした取り組みである。

## 評価された点

- 商店街の衰退を若者中心に継続的に対策を続けている成功例。さまざまな取り組みも魅力的で、「場」としての新たなエネルギーを感じさせる。建物など形ある手法と本質的な目標が一致している(コングルーエントな)点が力強い。
- 地域活性化のためには必須の「人材を育てる」「活躍の場を作る」「街づくりに参加する」などをコミュニティレベルではなくさまざまなステークホルダーを巻き込んだ取り組みが面白い。
- 中心市街地の取り組みは成功事例が少ないが、本取り組みはまさに地域再生が実現している優れた事例。
- 地域活動への若者の参加が難しい中、若者を中心とした地域全体に活動が広がっている点を評価。
- 地域産業の人材不足解消と中心市街地の活性化に同時に取り組む先進的な事例。町の活性化だけでなく、若い世代が町への愛着を持つことにもつながる取り組みを評価。
- 課題のソフト面もハード面も解決しながら、既存店主や新規出店者をつなぎ、それぞれのニーズ・意見を大切にしている。これからの展開が楽しみ。
- まちなか図書館など、受け皿づくりと総合学習やインターンなど街中に集まる工夫が随所に施されている。そこに多様なイベントをかぶせて、賑わいを常時演出できる工夫がある。他地域の参考となる。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



きっかけ

2018年～

・地元企業が合同でインターン生用の宿泊施設を建設。

2019年～

## 空き店舗等を活用した若者の出店が増加した

・地域を盛り上げたい若者によるイベントや新しい事業に取り組む若手事業者が次々に集まり、元々商店を営んでいた店主も加えて、地域活性化に向けた動きが始まる。



・オーバーアーケードを維持していた商店街振興組合は解散へと動き始めた。

2021年～

## つばめまなか商店街を設立

・さまざまなステークホルダーが参加する定例会議の開催。  
・イベント開催やソフト事業に取り組む。

・周囲を巻き込んだソフト事業の取り組みへ。

2021年～

## 自分事として取り組むソフト事業

・ゼロイチマルシェ。  
・みんなの図書館ぶくぶく。  
・中学校の総合学習の場。  
・イドバタ会。  
・部活動。  
・大学生の研究の場。

・店舗の老朽化課題解決や、商店街の滞在空間づくりを開始。



2023年～

## 滞在空間を含めたハード整備を実施

・これまで通り過ぎるだけだった地域が滞在する地域へと変化。  
・広場、駐車場の整備。  
・民営の有料トイレの整備。  
・トレーラーハウスを活用した学生の自習室を整備。



・燕市中心市街地再生モデル事業を活用。

2024年～

## 人々が行き交う複合施設が完成

・燕のモノ・コト・ヒトが集まる施設。  
・商店街の案内所としての機能を有している。

今後の展望

・魅力あるヒトがヒトを惹きつけながら、新しい価値を創出し、地域課題を解決。  
・将来を担う子どもに対して、この場所で楽しく働く姿を示す。

## 受賞者のコメント

「商店街変わってきたね!」と耳にすることが増えました。新施設では図書館利用者の交流会やフリマ、ボードゲーム会など新たなコミュニティも生まれています。さまざまな人が主役になるイベントを開催することで、中高生や

外国人の姿も見られるように。さらに、空き家調査を進め、新規事業者を誘致する取り組みもスタート。これから誰もが関わられる地域活性の場作りを整えていきます。



湧き水「生水」と「かばた」のある暮らしを未来へ

はり え し ょ う ず さ と

## 針江生水の郷委員会

### DATA

事 例 名：湧き水「生水」と「かばた」のある暮らしを未来へ

所 在 地：滋賀県高島市新旭町針江372

連 絡 先：TEL 090-3168-8400

E-mail shozunosato@lapis.plala.or.jp

ホームページ：<https://harie-syozu.jp/>

### 取り組みの概要

2004年、NHK「映像詩 里山Ⅱ 命めぐる水辺」の舞台として針江地区の「かばた」と暮らしが放映された。地域では当たり前の暮らしを見たいと来訪者が訪れるようになり、地域住民が暮らしを守るために「針江生水の郷委員会」を設立。ガイドとともに見学するルールを整備した。以来、環境と共存する暮らしを守りながら来訪者には水環境に関する学びを提供し20年目を迎えた。20年間の来訪者は約10万人。子どもたちの生き物観察会の開催など次世代育成にも力を入れている。

### 評価された点

- エコツーリズムの好例。今年が20周年。湧水の環境と文化を守るための活動。
- 歴史的な日本の財産である地域資源を観光誘致のために無料で開放するのではなく観光客から協力金を回収し、その見返りにガイド付きで案内することで双方にメリットがあるので継続事業として成立していけると思う。
- 針江のかばたの暮らしは、地元若手には単に不便な生活様式と映っていた。それが、2000年代初頭から

始まったこの活動のおかげで次世代がその暮らしに誇りを持てるようになっていった点を評価。

- 観光客の受け入れにおいてオーバーツーリズムが指摘される中、住民が来訪者との関係性を築こうと努力を重ねてきた点を評価。
- 湧水を利用した「かばた」と水環境に配慮した暮らしを大切に守りながら、それを対外的に紹介する仕組みをつくり、20年にわたってつくってきた点を評価。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

里山命巡る水辺が放映され、針江も「かばた」も有名になる中、故郷に誇りを持つ活動が20年も続くこととなりました。ひとえに針江の皆様のご理解と、特に、生水の郷委員会に関わってくださった関係者の方々のおかげと、心から感謝いたします。令和5年

度から、子どもたちに、針江区民皆の宝物を感じてもらおう事業を企画しました。令和6年度も、針江区民、特に子どもたちに元気を与えようと20周年記念事業を開催しました。20周年という節目に大賞をいただけて、針江の皆様の誇りにつながると思います。



# ふるさとづくり大賞 団体表彰



旅行者に地域の日常体験を提供するまちごとホテル事業「SEKAI HOTEL」

せ か い ほ て る ふ せ

## SEKAI HOTEL Fuse

### DATA

事例名：旅行者に地域の日常体験を提供する  
まちごとホテル事業「SEKAI HOTEL」

所在地：大阪府東大阪市足代1-19-1

連絡先：E-mail fuse@sekaihotel.jp

ホームページ：https://www.sekaihotel.jp/area/fuse/

### 取り組みの概要

まち全体をホテルに見立てた「まちごとホテル」事業を展開。客室はまちに点在する空き家をリノベーション活用し、飲食や入浴といったホテルとしての機能はまちの事業者が担う（朝食は喫茶店、お風呂は銭湯など）。「旅先の日常に飛び込もう」をコンセプトとし、地域店舗で特典を受けられるため宿泊客が周遊。空き家増加の原因となっている「地域の衰退」を解決し、「空き家の活用」そのものも行う。また、有名観光地や立地に依存せず、観光資源のない地域でも文化の可視化・価値化することで誘客につながるモデルを実現。

### 評価された点

- 近年のインバウンド観光の傾向として、モノよりコトの体験が重要視されておりより身近に地域らしさを感じられるプロジェクトを街ぐるみで実施。満足度の高い旅行が期待できる。
- まちごと構想は、既視感はあるものの、積立をしたり、横展開も既に始まっている点を評価。
- 観光地とはいいにくい商店街でユニークなチャレンジを行い成功を収めている。
- まち全体を資源として、よくある観光資源がないまちでも取り組める事例。
- 従来型の典型的な観光地ではない地域で、空き店舗をリノベーションし客室として活用することによる商店街の衰退防止や、商店を周遊することによる地域内経済循環の創出に貢献。来街者と商店との新たな交流による、市の魅力向上、
- 交流人口や関係人口の増加、地域住民のまちへの愛着が醸成されている点を評価。
- 新たな賑わいを作りながら、持続可能な、空き家活用。活用している軒数と宿泊者数は特に著しい。訪問客が観光地ではなく、地域の日常を楽しく体験できることは、本人の経験だけではなく、地元の方にも地元の誇りや地元を楽しむことにつながる。
- 斬新な発想で、空き家問題の解決と地域経済の活性化を両立させた取り組みは、地域資源の再発見と文化の持続化を実現し、観光誘客の新たなモデルを示唆。
- 東大阪市の商店街を中心に、まちごとホテル事業の展開により、関係人口創出と空き家活用などの取り組みを進めている。

## 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

きっかけ

2012年～

・不動産事業を通じて空き家や遊休地の課題解決に関心を持つ。

2017年～

・大阪府大阪市に1号店「SEKAI HOTEL Nishikujo」を開業。  
・宿泊者が支払う宿泊費のうち200円を積み立て、社会や地域に還元する仕組み「Social Good 200」をスタート。

2018年～

・地域の周遊を促す「SEKAI PASS」をリリース。  
・大阪府東大阪市に2号店「SEKAI HOTEL Fuse」を開業。  
・地域の子ども向けイベント「icoima」スタート。



2019年～

・ラグビーワールドカップ2019日本大会(東大阪市花園ラグビー場で4試合開催)。

・全国展開に向けたパートナーシップ事業の募集開始。  
・日経優秀製品・サービス賞2019「日経MJ賞 最優秀賞」受賞。  
・韓国ソウル特別市、UNESCO 都市デザイン ソウル主催「Human City Design Award 2020」ファイナリスト選出。  
・ラグビーワールドカップ2019日本大会が東大阪市花園ラグビー場で開催されることに伴い東大阪市の魅力を世界に発信。

2020年～

・コロナ禍において地域店舗を支援するECサイト「ORDINARY MARKET」をリリース。  
・ガイドブック兼コンシェルジュ機能を有する公式LINEの提供スタート。

2022年～

・富山県高岡市に3号店となる「SEKAI HOTEL Takaoka」をパートナーシップ事業として開業。  
・旅先の日常をより深く楽しむことができる、エリアごとの合言葉を発表。



今後の展望

・地域住民が小口投資でSEKAI HOTELプロジェクトに関われるスキームの構築。  
・全国20拠点の展開。

### 受賞者のコメント

この度は栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。「SEKAI HOTEL」は地域の方々の協力のもと、宿泊を通じて“旅先の日常”を体験してもらいます。2024年は6,700名ものお客様にご利用いただきました(過去最多)。

幅広い世代の方々が“旅先の日常”に飛び込み、地域の魅力を感じてくれたかと思います。この受賞を励みに、より多くの方が地域を感じられるよう創意工夫し、また、シビックプライドの醸成を目指します。



多様な学科を有する専門高校としての特色を活かした地域との協働活動

ひょうごけんりつ たつのきたこうとうがっこう

## 兵庫県立龍野北高等学校

### DATA

事例名：多様な学科を有する専門高校としての特色を活かした地域との協働活動

所在地：兵庫県たつの市新宮町芝田125-2

連絡先：TEL 0791-75-2900  
FAX 0791-75-2296  
E-mail tatsunokita-hs@hyogo-c.ed.jp

ホームページ：<https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/tatsunokita-hs/>

### 取り組みの概要

文化的財産や地場産業の豊かな「たつの市」だが、少子高齢化が加速し、地域の活性化が課題となる中、龍野北高等学校全日制課程・定時制課程の生徒たちが、それぞれの強みを活かして、地場産業に焦点をあてるイベントを行うなどの地域貢献を行っている。1年を通して地域の住民とともに活動し、地域からの要請に応じた教育活動を展開することで、協働的に地域を盛り上げている。

### 評価された点

- 学習指導要綱にて「探究」により重きが置かれる中、町ぐるみで数々の地域づくりの実績をあげてきたことを評価。
- 高等学校が地域活性化の中核となって活躍している優れた事例。
- 高校全体で取り組んでいる点がユニーク。
- 新たな学びの場として定時制課程に着目。
- 高校生たちが自分らしく活動をして、地域に貢献していることが素晴らしい。こういった活動によって、地元への帰属意識や自尊心や自信が生まれる。また、地域にとって新鮮な交流があり、活性化とつながる。このような学校のある地域に住みたい人もきっと多い。
- 高校の教育活動として、他の地域の高校にもとても参考になる事例。
- 空き家とアート及びその制作現場として貢献。各学科ごとにテーマを持たせて、地域づくりに総合的にアプローチしている点や総合型選抜入試にも対応できる点で興味深い取り組み。



# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

きっかけ

2008年～

## 専門高校の発展的統合

<全日制>電気情報システム科・環境建設工学科・総合デザイン科・看護科・総合福祉科。  
<定時制>商業科。

・地域に育まれる「地域との連携」を教育目標に。  
・地域の活性化が社会的課題。

2002年～

## 兵庫県立龍野実業高校から続く

・皮革まつりファッションショー。  
・町ぞう美術館。



・地域商店街。  
・皮革組合。

2003年～

## 地域のショップ「龍北工房」

・地域社会に育てられる経営に関する学び。  
・地域住民とともに取り組む活性化。

・JR西日本。  
・地域神社、商店街。  
・西播磨文化会館。  
・たつの市、西播磨県民局。  
・小学校、中学校。等

2008年～

## 地域に学習成果の還元。年々拡大

・JR路線図の製作。  
・神社の整備、物品奉納。  
・高齢者大学との交流。  
・施設・医療機関で実習。  
・たつの市、西播磨地域、姫路市のイベントへの参加。

・ショーウィンドウの作成。  
・庭園整備。  
・地域住民とのふれあいカフェ。  
・小学生へ木工・電子工作授業。



・2009年佐用町豪雨災害で在校生が命を落とす。

・自衛隊、消防、警察。  
・自治会。  
・国土交通省。  
・兵庫県防災士会。  
・たつの市。等

2009年～

## 「防災教育の龍北」。地域拠点型合同防災訓練

・兵庫県立高校の中で防災教育の西の拠点校としての役割を果たす。  
・「地域拠点型合同防災訓練」を行い、各科の学びを活かし、地域連携を通して防災意識の高揚を図る。

・地域連携の継続、定着、発展。

## 今後の展望

- ・持続可能な地域連携。
- ・地域の活性化。
- ・DXハイスクール等の高校での学びの発信。
- ・地域で活躍する人材の育成。

## 受賞者のコメント

本校は、「まちを支える人づくり スペシャリストへの道」をスローガンに、地域と協働する教育活動を展開しています。今回賞をいただけたのは、本校生徒の活動が地域の皆様からご理解ご共感いただいているからこそと考えたいと思います。

地域の小中学生や高齢者とともに、自治会やたつの市等の関係機関とともに、また地元企業や地場産業を支える人々とともに。これからも地域に育てられそして地域を育てる「人づくり」としての協働活動を続けていきたいと思っています。



# ふるさとづくり大賞 団体表彰



奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会による地域型アートプロジェクト  
「奈良・町家の芸術祭はならあと」

な ら ま ち や げ い じ ゅ つ さ い は な ら あ と じ っ こ う い い ん か い

## 奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会

### DATA

事 例 名：奈良・町家の芸術祭HANARART実行委員会による地域型アートプロジェクト  
「奈良・町家の芸術祭はならあと」  
所 在 地：奈良県桜井市戒重26番地-1  
連 絡 先：TEL 090-9215-6847  
E-mail info@hanarart.jp  
ホームページ：https://hanarart.jp/

### 取り組みの概要

奈良県内の各地区における町並み保存や町家利活用の促進、地元まちづくり団体主体の運営による地域力の向上、現代芸術を通じた新たな地域価値の創出、住民の町に対する誇りや愛着の醸成などを目的として、県内複数エリアにおいて、歴史的町並みや町家または空き家を舞台に、現代芸術の展示会を開催している。現在、会場となった空き家が、その後住居や店舗などに利活用された事例は46件となっている。

### 評価された点

- 空家の利活用の独創的な例。2011年から継続。46件がその後町家再生につながっている。
- 京都等でお寺や古民家、蔵で芸術展を開催しているが環境問題に特化し若い世代にSDGsを伝えている点を評価。
- アート系イベントの開催数は増加しているが、期間限定のもので恒常的なまちの活性化につながらないことも多い。この取り組みはイベント的な取り組みが地域に根差して継続的な活動になっている。
- 芸術会場になった点を次の展開に活かしていることや、多くの地域で行っている点を評価。
- 県内各地の団体が連携して取り組んでいる点がユニークで継続性がある点を評価。
- 県内各地区での芸術祭をきっかけに、若い世代の地域づくり活動への参画の機会が創出され、アートや環境保全などの活動など、10年以上にわたって展開してきている点を評価。
- 環境と持続可能性をテーマに、現代アートを通して、空き家というマイナスをまちのためのプラスに逆転。事業の多様性が非常に高いが、特に評価したいのは発展性。活用した空き家の件数、活動地域の幅広さ、何よりも、空き家を活動できるものに変えることが、今までの発展性とこれからの発展性が非常に高い。
- 町並み保存や町家の子ども活用、地域価値の創造や住民の誇りを高める活動を展開。現代芸術と地域文化を融合させた新たな魅力を、環境問題にも積極的に受け止めている。
- 大きな芸術祭ではなく、小さくても実現可能であることを示した点は他の地域にも参考になる。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

・古代から街道でつながって繁栄してきた地域であり、歴史的町並みや町家保存活用等に取り組みまちづくり団体及びそのネットワークが県内に存在。



## きっかけ

・県内各地区共通となっていた空き家の増加や人口減少の課題に対して、さまざまな関係者との連携による、まちづくりと現代美術のコラボの可能性が提示された。

・奈良県共催。大和・町家バンクネットワーク協議会との連携。

2011年～

### 奈良・町家の芸術祭HANARART初開催

・開催地域のまちづくり団体が中心となって実行委員会を結成。県内の美術関係者、アーティスト、さらに行政が連携して開催。  
・開催したまちへの期待感が生まれ、まちづくりを応援する人も増加。



以下の2つの課題を感じる。  
・奈良の歴史や文化をもっと掘り下げたい。  
・まちづくり団体や地元住民と皆で取り組みたい。

2012年～

### 芸術祭を「こあ」「もあ」の2部門で開催。地域とのコラボ企画も実施

・公募キュレーターによる指揮のもとその地域にちなんだ一貫したテーマで開催する「こあ」。  
・アーティストが自由な発想で自主企画する「もあ」。  
・地元学校でのワークショップや地元企業とのコラボ商品企画など。



・2013年度、約2か月に渡る開催で約95,300人以上が来場。過去最大規模の開催となるがスタッフの負荷が大きく、開催方式を見直し。

2014年～

### 「こあ」「ぶらす」の2部門で開催

・キュレーターによる指揮のもとその地域の特性を活かしたテーマで現代美術の展覧会を開催する「こあ」。  
・現代アートにこだわらず、各地域のまちづくり団体が独自に運営する「ぶらす」。

・芸術祭の次の展開として、同一キュレーターによる3年間同じテーマでの芸術祭を企画。現代社会へ訴求するメッセージとして「環境問題」を取り入れる。

2020年～

### 「地球にやさしいエコロジカルな芸術祭」としての取り組み開始

・環境に配慮した制作を行うアーティストによる展覧会を企画。  
・FSC認証紙を使用、プラスチックフリーの運営。  
・環境がテーマのサステナブル講座、映画上映会、エコマルシェの開催。



2024年～

### これまでの成果

・2011年以来、1年も休むことなく毎年開催し2024年で14年目。  
・これまでの14年間で、奈良県内13市町村22エリアにおいて開催。  
・延べ来場者数は約438,100人、延べ参加作家数は960組、会場となった空き家がその後にご利用された事例は46件。

## 今後の展望

・当芸術祭の継続を望む地域住民とともに組織の再編、開催形式、運営方法の見直しなどを行いながら、これまで応援していただいた企業・行政の支援を引き続き得て、持続的な運営を目指す。

## 受賞者のコメント

この度はふるさとづくり大賞 団体表彰(総務大臣表彰)を賜り、心より感謝申し上げます。身に余るような名誉ある賞をいただくことができたことを大変光栄に思います。まちづくり団体が主体となりアートの力で魅力あるまち

づくりを14年間提案し続けてきたことを評価していただき大変嬉しく感じています。はならあとが一過性のイベントではなく、地域に根ざした芸術祭として一層真摯に取り組みなければとの思いを新たにいたしました。



## ふるさとづくり大賞 団体表彰



生きる力を育む『大和・飛鳥民家ステイ』による体験型教育旅行の推進

やま と あ す か

# 一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズム

## DATA

事例名：一般社団法人大和飛鳥ニューツーリズム  
所在地：奈良県高市郡明日香村大字島庄5番地  
連絡先：TEL 0744-54-1525  
FAX 0744-54-1526  
E-mail info@yamatoasuka.or.jp  
ホームページ：https://yamatoasuka.or.jp/

## 取り組みの概要

地域での滞在時間増加による経済効果創出及び、「日本始まりの地・飛鳥」の付加価値を高めるために行政と村内事業者等の連携によりスタート。参加者がホストファミリーの日常生活の中に入り家族の一員として過ごし、共同調理や家業体験などを通して地域住民との交流を深める「民家ステイ」を推進。世代・国籍を超えた心の高まりによる感動体験の共有とそれによる地域内消費創出の両立を目的とする。

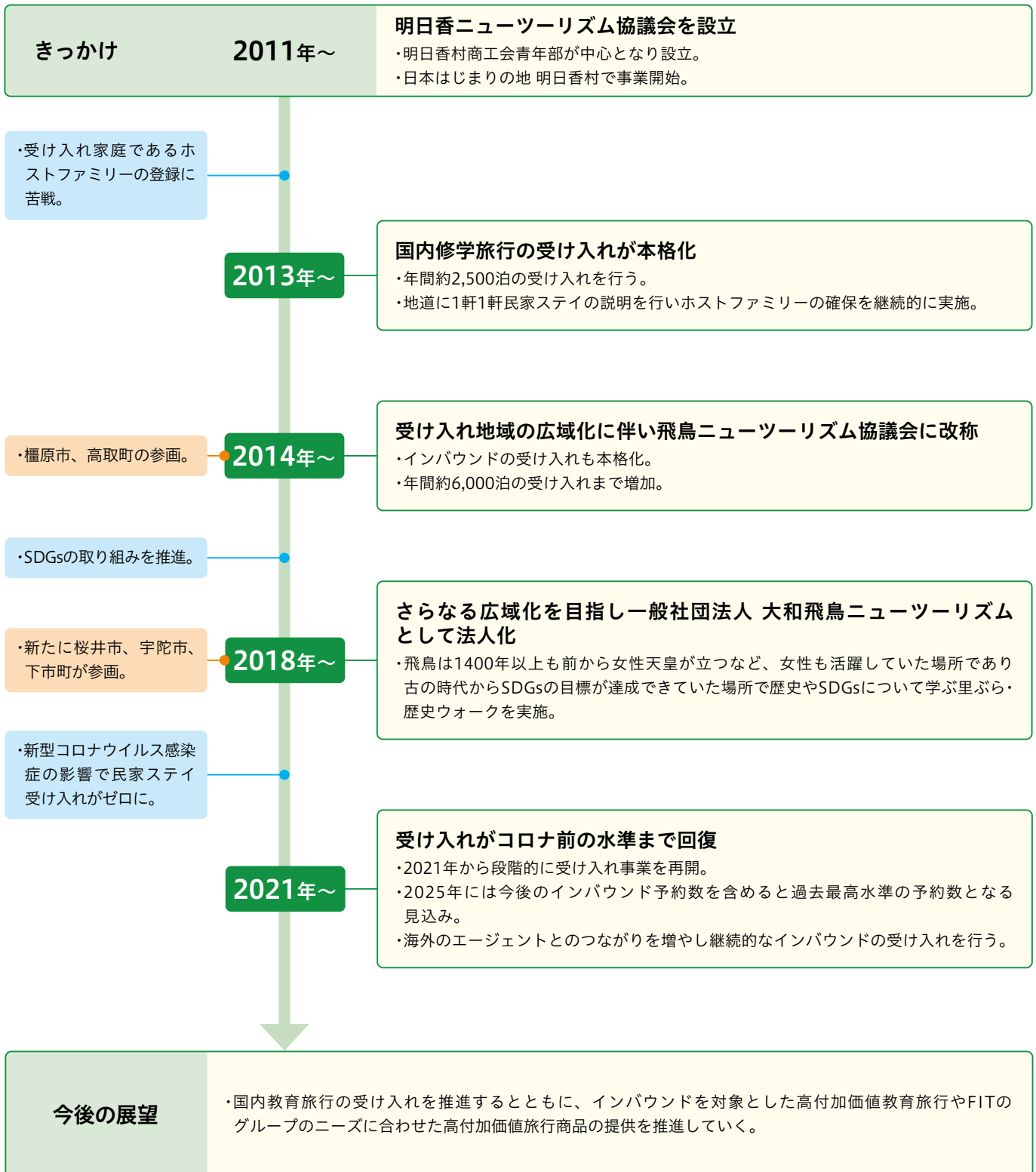
## 評価された点

- 2011年から行われる、広域的な体験型教育旅行の活動。年間予算は約8千万円と規模が大きい。2024年の受け入れ予定は4,518名にのぼる。うちインバウンド2,065名。
- インバウンドの増加もあり全国的に観光振興が活性化している中、明日香村は他の地域と少し異なるアプローチで取り組んでいる。ベストツーリズムビレッジ(アップグレードプログラム)に選出されたのは素晴らしい。
- 多面的な展開をし、消費につなげ、リピート集客にも発展している。
- ホストファミリーを維持し続けている点を評価。
- 足元の資源を活かし、海外も視野に入れた取り組み。
- 10年以上、地域で民泊を推し進め、インバウンドを含めた受け入れ体制構築を図ってきている。
- 歴史の深い地域の特性を活かし、学生をターゲットにしたマーケティングを実施。来訪者は地域資産を活用した教育機会を、地域住民は修学旅行生との交流を通じて地域への誇りを得ることができる。「体験型教育旅行」として活性化だけでなく、幅広い世代の情操教育の実現を目指している。

## 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



### 受賞者のコメント

この度は誠にありがとうございます。大和飛鳥地域のホストファミリー、地域内の各種団体、来訪いただく学校関係者、各旅行会社などの皆様とこの受賞の喜びを分かち

合たいです。今後も心が高まる感動体験の共有を目的として、活動に邁進していきたいです。



ガイナレ鳥取による地域課題プロジェクト「Shibafull」<sup>しばふる</sup>

## ガイナレ鳥取<sup>とっとり</sup>

### DATA

事例名：ガイナレ鳥取による地域課題プロジェクト「Shibafull(しばふる)」  
 所在地：鳥取県鳥取市南隈418  
 連絡先：TEL 0859-24-8023  
 FAX 0859-24-8024  
 E-mail info@gainare.net  
 ホームページ：https://www.gainare.co.jp/

### 取り組みの概要

ガイナレ鳥取は鳥取県唯一のプロサッカークラブであり、「SC鳥取百年構想」に「地域社会の一員としてお役に立つ」ことを掲げている。2017年、クラブはスタジアム管理で培った芝生生産のノウハウを活かし、地域の耕作放棄地の解消と経営の安定化を目的に「しばふる」を立ち上げた。耕作放棄地を活用して芝生生産面積を拡大し、生産した芝生は地域の学校などで広く活用され地域循環型のプロジェクトとなっている。芝生化した学校には選手・スタッフが訪問し子どもたちと定期的に交流するなどの取り組みが年々広がり、クラブ収入の大きな柱になっている。

### 評価された点

- プロサッカークラブが芝生育成のノウハウを活かして、芝生の生産販売を行う。さらに地元の学校等ほかの施設の芝生化に貢献。耕作放棄地の有効利用にもなっている。
- 地域プロサッカーチームのアセットの中で、「芝生」という広く身近なものに振り切っているのが慧眼。選手との交流、地域の子育てなどウィンウィンの効果にも着目する。
- 地域のスポーツチームの各地での地域貢献とは趣が異なり、地域課題の解決に大きく貢献。
- 人口最少県でもプロスポーツのクラブを育てることが

できる。

- 耕作放棄地で芝生を生産し、学校等に芝生を提供することなどを通じて交流の機会を拡げる活動を展開している点。
- 耕作放棄地解消という地域課題の解決に向けて、芝生生産に関するノウハウと、生産に適した県の地質を有効活用。芝を基軸とした持続的な取り組みで、産業振興や安全な町づくり、コミュニティの向上に貢献。地元サッカーチームを地域で応援していこうという意識が高まっている。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

「しばふる」は地域企業や自治体をはじめ地域の方々との新しいつながりや思いを生みながらここまで続けることができました。今回このような評価をいただき大変嬉しく思いますしこれからの活動の大きな弾みになります。

スポーツの力で地域のお役に立てる事はまだまだたくさんあると思います。「この地域にガイナレ鳥取があつてよかった」そう思っていただけの瞬間をこれからもどんどん増やしていけるよう多面的に取り組んでいきたいです。



## ふるさとづくり大賞 団体表彰



うどんまると循環コンソーシアムによる「うどんまると循環プロジェクト」

# うどんまると循環コンソーシアム

### DATA

事例名：うどんまると循環プロジェクト  
 所在地：香川県高松市香南町西庄941-5  
 連絡先：TEL 080-3924-7023(久米)  
 E-mail watatumi.syodo@gmail.com  
 ホームページ：<https://www.udon0510.com/>

### 取り組みの概要

讃岐うどんは香川県が誇るソウルフードであり、「うどん県」として全国的に有名になったが、工場等から大量にうどんが廃棄されているという実態がある。このため、産学官民が結集して、2012年1月から当プロジェクトを開始し、うどん工場などで廃棄されるうどんや食品残渣を回収、バイオガス発電を行った後、残渣から肥料を作り、小麦畑にその肥料を蒔き、小麦を収穫し、うどんを再生産するという「うどんをまると循環させる」システムを構築するとともに、環境教育や食品ロス削減など多岐にわたる活動に取り組んでいる。

### 評価された点

- 県の「顔」であるうどんの循環、というパワーワードな取り組み、食品ロス削減・環境対策といった時代に即した価値を追求するスキームは他に例がなく高く評価。
- 着眼点が良かった。まず第一前提としてはロスを無くしていくことも大切だが、出てしまったものに対しての循環型の取り組みを評価。また、そこに発電以外も活動の広がりがあることも評価。
- 名物のうどんが抱える課題に取り組み、資源循環サイクルを構築したことは素晴らしい成果といえる。これからの発展も期待。
- ゴミを資源化し、うどん製造だけでなく、小麦の生産や、文化への理解度を高めるための取り組みを行っている。
- 地域資源と環境問題をつなげたユニークな取り組み。
- うどんを基軸としたバイオマス・食品廃棄物リサイクル・循環システムの構築を地域と連携して実施。県と連動した環境教育の取り組みにより、地域内の人のSDGsにもつながる活用が行われており、「うどん県」のイメージ向上に寄与。地域の食を支え、観光資源としてのうどんを有効に活用。
- うどん残渣から売電、肥料、フードバンクの取り組みなど好事例。さらに住民満足度も高い(エコツアー、福祉施設へうどん提供)ことも特筆される。今後の展開が期待できる。



# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

## きっかけ

2011年～

・うどんが大量に捨てられていることが課題だった。うどんバイオエタノールを開発したという記事がきっかけ。

・バイオエタノールをどのように使うかメンバー内で議論が活発化。

2012年～

・バイオエタノールは採算性が合わず事業から撤退。

### 産学官民が結集してコンソーシアム結成、プロジェクト始動

- ・当初はうどん残渣からバイオエタノールを作り、うどんを茹でる燃料として検討。
- ・エコツアーやイベントを通じて、うどん残渣をエネルギー化する取り組みをPR。マスメディアによって大々的に訴求され、スタートダッシュは大成功。



・「うどん発電」というキーワードが大きく取り上げられ、認知度向上のきっかけとなった。

2014年～

### 「うどん発電」開始

- ・ちよだ製作所のメタン発酵プラントが始動し、うどん残渣をガス化して電気を作り売電。
- ・残った残渣で肥料を作り、小麦畑に蒔いて小麦を収穫、うどんを再生産するシステム・モデルを構築。住民を巻き込んだ地域づくりの開始。



・開始当初から約7年間、香川県、環境省、地球環境基金の補助等を活用。この時期に概ね基盤を整備。

2017年～

### 自治体施策への関与

- ・四国EPOを通じて香川県廃棄物対策課（現循環型社会推進課）から声がかかり食品廃棄物削減推進協議会に参画。
- ・2020年度からは香川県食品ロス削減推進協議会のメンバーとして香川県食品ロス削減推進計画の策定に関与。

・当初からプロジェクトでも大きな課題であった食品ロスが大きく注目され始めたため、具体的な取り組みの必要性を再認識。

2020年～

### コロナ渦での取り組み内容の転換

- ・コロナ渦により従来型のイベントや大量動員のエコツアーが困難となり、取り組み内容を見直し。
- ・さぬき麺業と旅行会社との連携企画により、ZOOMを使ってプロジェクトを説明するとともに画面越しにうどん手打ち体験ができる、オンラインSDGsツアーを開発・実施。
- ・規格外食品の「茹で麺」を、社協等を通じて生活困窮者に提供開始。
- ・ESD拠点として地域住民が活用開始。ローカルSDGs四国に加入。

・コロナ渦以降は活動を維持しつつ財政規模を縮小。香川県環境保全公社補助を活用。

2023年～

### アフターコロナ

- ・少人数でのエコツアーや着地型観光によるサーキュラーエコノミーツアーの活況。
- ・先進的な取り組みとして、国・自治体・企業等からの視察・研修などが増加・定着。

## 今後の展望

- ・ローカルSDGs四国のプラットフォームを活用し、将来的には四国に取り組みを広げる。
- ・香川県や高松市、観光事業主体等と連携し、観光面で地域を活性化させる。
- ・メタン発酵プラントの導入を加速化させ、食品企業等の環境・経営両面の改善促進。



## 受賞者のコメント

この度は「ふるさとづくり大賞」という荣誉ある賞をいただき、メンバー一同大変喜んでおります。2012年のプロジェクト開始当初から試行錯誤を重ね、コロナなど時代の環境に合わせて変化してきましたが、「もったいない」の精神

から「うどんをまるごと循環させる」という一貫したコンセプトで、地域の皆様とのふるさとづくりの一助になったのではないかと考えておりますので、引き続き皆様方のご協力よろしくお願いいたします。



民間事業者(都城市ふるさと納税振興協議会)による新しい官民連携と地方創生の推進

みやこのじょうし のうぜいしんこうきょうぎかい

## 都城市ふるさと納税振興協議会

### DATA

事例名：都城市ふるさと納税振興協議会による官民連携の  
取り組み

所在地：宮崎県都城市姫城町12街区6号 外村ビル2階南側

連絡先：TEL・FAX 0986-70-0627  
E-mail [furusato\\_miyakonojo@yahoo.co.jp](mailto:furusato_miyakonojo@yahoo.co.jp)  
ホームページ：<https://miyakonojo-kyogikai.jp>

### 取り組みの概要

都城市が対外的PRを目的に推進するふるさと納税。これをより推進するため、2016年4月に返礼品を送付する地元事業者が集結し「都城市ふるさと納税振興協議会」を発足させた。この協議会では、ふるさと納税の推進のみならず、ふるさと納税を超えたファンづくりの取り組み、地元や被災地などの支援を行う地域貢献活動などを、加入する事業者自らが出資する負担金のみで実施しており、他には事例のない全国唯一の取り組みを行っている。

### 評価された点

- ふるさと納税の返礼品を送付する地元事業者が集まって、対外的PRや地元貢献活動を推進。官民協調の新しいかたちといえる。予算規模1.4億円と安定している。
- 最近のふるさと納税はモノより無形のサービスや支援、体験に切り替わってきているが運営費が税金。それをそれぞれメーカーが少しずつ協力して次への拡大に向けて取り組んでいる点を評価。
- 多数の関係事業者の合意を取り付け実現したこの事業スキームは簡単そうに見えるかもしれないが、とても難しく、よくそれを実現させたと高く評価すべきもの。また、この取り組みは民間主導で新たな観光物産振興の特定財源を確保している稀有な例ともいえ、全国展開してほしい。
- ふるさと納税をきっかけとした、ユニークな取り組みであり評価したい。
- 地元事業者間の壁を乗り越え、地域が一体となって活動。協議会のプロモーション活動や関係人口創出の取り組みにより、5度のふるさと納税日本一。人口減少対策にも取り組み、市の人口増加や地方創生に大きく寄与。
- 活動の徹底的さ、幅広さ、成功、地元への還元などから、地元への情熱を感じられる。審査基準の全ての項目を満たしているが、特に「協働性・連携性」の強さが「効果」につながっている。他の地域のための参考成功事例。
- ふるさと納税の収益の一部を還元し、地域活性化につなげている試みはきわめてユニーク。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援

## きっかけ

2015年夏

・地元事業者が、都城市のふるさと納税に自主的に連携して取り組みたいという想い。

・2016年4月1日  
都城市ふるさと納税振興協議会設立。

2016年4月～

・自治体だけでは決ま  
できない、さまざま  
取り組みを発案・実施。

### 協議会活動開始

- ・3つの活動の柱(官民連携の取り組み)。
  - ・市と連携したシティプロモーション。
  - ・ファンづくりの取り組み。
  - ・社会貢献と地域貢献。
- 上記の取り組みに、返礼品を送る地元事業者が自らの負担金のみで着手。



・2016、2017年度  
都城市がふるさと納  
税寄附額日本一に。

2016年4月～

・災害に遭った地元小  
学校への寄附。

### 都会でのイベントやプロモーション

- ・都城市のファン招待イベントを都会で開催。
- ・さまざまな媒体を活用したシティプロモーションを実施。



・協議会による地域貢献に  
ついて、新聞に取り上げ  
られる。

2016年4月～

### 地域貢献・社会貢献

- ・ふるさとを振興する取り組みに対する助成。
- ・災害などに対する寄附。
- ・地元の学生や県外で頑張る地元出身者に対する支援活動。
- ・市民向けイベントの開催。



・菅元総理(当時は内閣官  
房長官)の視察。



2018年4月～

### 関係人口創出

- ・ふるさと納税川柳による寄附者や都城ファンとの交流。
- ・返礼品レシピの開発と紹介。



・事業者同士のコラボの  
取り組み。

2018年4月～

### 地域一体となった取り組み

- ・複数事業者とコラボした新商品開発と販路開拓。
- ・先進自治体の視察や同業者との意見交換などの研修会。
- ・独自の事業者表彰制度の設立。



・2020、2022、2023年度  
都城市がふるさと納税  
寄附額日本一に。

## 今後の展望

- ・プロモーションやファンづくりは1日にして成らず。設立当初から変わらない活動の柱を引き続き継続していく。
- ・全国に事例がないが、この官民連携の新しい形が全国に広まるよう活動を推進していく。

## 受賞者のコメント

総務大臣表彰受賞を大変光栄に存じます。  
私たちは、都城市のふるさと納税返礼品をお届けする事業者の集まりとして、都城市と手を携え、市の対外的PRを推進するとともに、自己資金のみで、その先にあるファン

づくりや地域貢献などを積極的に行ってまいりました。  
全国でも例のない私たちの活動は、地域の大きな活性化につながっており、このような官民連携の新しい形が、全国に広まっていくことを心から願っております。



# ふるさとづくり大賞 地方自治体表彰



『歳時記の郷・奥会津』自然のなかに暮らしいとなみ、100年先のみらいへ

ただみ が わ で ん げ ん り ゅ う い ぎ し ん こ う き ょ う ぎ か い

## 只見川電源流域振興協議会※

### DATA

事例名：『歳時記の郷・奥会津』自然のなかに暮らし  
いとなみ、100年先のみらいへ

所在地：福島県大沼郡金山町中川字上居平933  
「奥会津振興センター」内

連絡先：TEL 0241-42-7125  
FAX 0241-42-7127  
E-mail tdrsk@okuaizu.net

ホームページ：https://okuaizu.net/

### 取り組みの概要

福島県内でも特に著しい過疎化・少子高齢化が進む奥会津の地域振興を進めるために策定した、第4期只見川電源流域振興計画の基本理念「『歳時記の郷・奥会津』自然のなかに暮らしいとなみ、100年先のみらいへ」を実現するため、2つの基本方針「奥会津らしさの共有と発信により、地域プライドとブランドを確立する」「地域内外の連携と交流促進により、人づくりと産業振興の好循環をつくり出す」を定め、持続可能な地域として世界の中でも存在感のある地域づくりに挑戦し、100年先の未来へつなげるための取り組みを実践している。

※柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、南会津町、檜枝岐村で構成する広域振興協議会。

### 評価された点

- 関係自治体及び地域の住民が主体的に取り組む機運が醸成され、住民のシビックプライドの醸成、地域ブランドの確立に向けた奥会津の取り組みは評価したい。
- 何もないと言われがちな過疎地から、自分たちの自然と暮らしに誇りを見出し、ブランド化に立ち上がった。
- 只見川流域で10年以上にわたって文化振興や交流促進、経済活性化など、多角的な事業展開を図ってきている点。
- 奥会津の100年先の未来に向け、奥会津5町村及び県の職員が連携し広域な地域振興に向けた各種取り組みの実施や、地域住民の自主性を育む取り組みの実施による

シビックプライドの醸成など100年先を見据え継続して実施している。

- 「奥会津」という広域でのブランディングを構築している。
- 地域住民が奥会津の地域資源を改めて見出し、地域に対する誇りを醸成する取り組みとなっている。
- 「奥会津らしさ」を基本コンセプトに、自然と暮らしと文化、人材育成がセットになった取り組みとなっている。外からの注目度の中で、地域住民の自覚と自信にもつながったと考える。

# 取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

行政や外部からの支援



## 受賞者のコメント

奥会津の存続と継承を基本に、「人づくり」「仕事の創出」「交流の拡大」を計画の根底に掲げ、実現に向けた各種施策に取り組んでまいりました。自然・人・文化・固有の精神性から織り成される「いとなみ」を価値ある「歳時記の郷」とし

て体現し、「100年先のみらい」をつくる次世代へとつないでいくため、今後も関係自治体がより強固に連携し、人が住み、人が集まる魅力的な奥会津を形成し、持続可能な地域経営を確立させ、広域的な地域振興を進めてまいります。

# MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

A series of 25 horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for handwriting practice.



総務省地域力創造グループ地域振興室

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 TEL:03-5253-5533

こちらのサイトで  
過去のふるさとづくり大賞受賞者の  
取材動画を公開しています。

一般財団法人地域活性化センター

